都城市文化財調査報告書　第 119 集

# 都城市内遺跡 8

*- The Sites excavated in Miyakonojô City（8th） -*

2015

都 城 市 教 育 委 員 会

# 序

本書は都城市教育委員会が国・県の補助を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の記録です。各種開発に対し、埋蔵文化財の保護を目的とする試掘・確認調査を行い、協議における基礎資料としました。

この報告書が文化財行政の一資料としてだけではなく、学校教育・生涯学習の場などで広く活用され、地域の歴史を知る手がかりとして活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、多大なる御協力を賜りました各関係機関をはじめ、調査に従事していただいた方々や周辺地域の皆様に対し、深く感謝申し上げます。

2015 年 3 月

都城市教育委員会
教育長　黒木哲徳

# 例言

1．本書は、都城市が平成 26 年度に国宝重要文化財等保存整備費補助金及び宮崎県埋蔵文化財緊急調査補助金を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．補助事業の事業主体は都城市、調査主体は都城市教育委員会である。

3．調査の目的は、都城市内の各種開発予定地における埋蔵文化財の有無及び遺存状況の確認である。

4．本書では、平成 26 年度に実施した試掘・確認調査のうち、補助事業として実施した 31 件の概要を報告している。

5．現場における記録写真の撮影及びトレンチ配置図・土層断面図の作成・製図、調査概要の作成は、各調査担当者が行った。

6．出土土器・陶磁器の実測は、調査員の指導のもと整理作業員が行い、製図は同市文化財課主査近沢恒典が行った。石器の実測は同市文化財課主査栗山葉子が行い、製図は同市文化財課嘱託早瀬航が行った。

7．本書の作成は、各担当者が作成した調査概要・製図・写真をもとに近沢が中心となって行い、同市文化財課主事中園剛史、早瀬の協力を得た。

8．現場における測量には遺跡調査システム「Site Xross」、本書に使用した図面の製図・編集には「トレースくん」・「Adobe Illustrator CS5」・「Adobe InDesign CS5」を使用している。

9．出土遺物及び各種記録類は、都城市教育委員会で保管している。

# 目　次


1．試掘・確認調査の概要 …… 1
2．元満遺跡 …… 5
3．軍神原遺跡 …… 6
4．県指定史跡志和池村古墳（12 号）/（屏風谷第 1 遺跡） …… 8
5．市指定史跡島津寒天工場跡（山之口大丸遺跡） …… 13
6．城谷遺跡（梶山城跡） …… 16
7．都城跡（西城跡） …… 19
8．後牟田遺跡 …… 21
9．平原第 2 遺跡 …… 22
10．都城領主館跡 …… 26
11．山野原第 1 遺跡 …… 27
12．東原遺跡 …… 29
13．梅北北原遺跡② …… 32
14．下川東四丁目（川東墓地隣接地） …… 33
15．市指定史跡小山城跡 …… 34
16．笹ヶ崎遺跡③ …… 35
17．下原遺跡① …… 37
18．上の段遺跡 …… 39
報告書抄録 …… 41

都城市PRキャラクター兼都城市PR部長「ぼんちくん」　　都城市埋蔵文化財キャラクター「たむたむ」

# 1．試掘・確認調査の概要

都城盆地は九州南部内陸部にあって、霧島火山の東南のふもと、宮崎県南西部から鹿児島県北東部にかけて広がる。その起源は列島形成時の陥没帯とされる。基盤層は四万十累層群とされ、近隣火山群の強い影響の下、シラス台地など火山噴出物起源の地形形成が発達している。南北に細長い盆地の周縁には標高 400 m程度の山地が連なり、南のみが大隅半島にむけて開口する。四方より流入する河川群は、盆地を南北に貫流する大淀川へと収束されたのち、北縁山地を抜け宮崎平野へと至る。内部地形は大淀川を境に西側のシラス台地、東の扇状地性の低位段丘に大別される。

都城市は東西 25㎞、南北 35㎞、面積約 650 平方㎞、周縁山地を含む盆地の大半を占めている。人口規模は約 17 万人、中心的な市街地は盆地底南部の扇状地面に形成されている。

都城市内における「周知の埋蔵文化財包蔵地」は、山間部を除く各地形面にまんべんなく分布するが、大淀川やその支流沿いの河岸段丘面、台地縁部、開析扇状地の側端部における分布密度が高い。また、九州南部域では霧島火山や桜島等の火山群から噴出したテフラが多く分布しており、遺跡調査の際の年代的指標としても利用されている。都城市内でも複数の火山灰層が確認されるが、目視同定が可能な次の 6 種が試掘・確認調査の際に多く利用される。霧島新燃岳享保軽石（Kr-SmK・霧島火山新燃岳起源・1717 年 ）。桜島 3 テフラ（Sz-3・桜島文明軽石・桜島起源・1471 年）。霧島御池軽石（Kr-M・霧島火山御池起源・約 4,600 年前）。鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah・鬼界カルデラ起源・約 7,300 年前）。桜島 11 テフラ（Sz-11・桜島起源・約 8,000 年前）。桜島薩摩テフラ（Sz-S・桜島起源・約 12,800 年前）[1),2)]。

平成 26 年度、民間事業に伴う埋蔵文化財の照会件数は 212 地点（集計数値は平成 26 年 2 月 17 日時点。以下同様）の記録が残り、公共事業に関しては、庁内の事業調査にて 156 事業が把握される。前年度と比較し、民間事業は 100 件程度の減少、公共事業は 30 件程度の増加となっている。

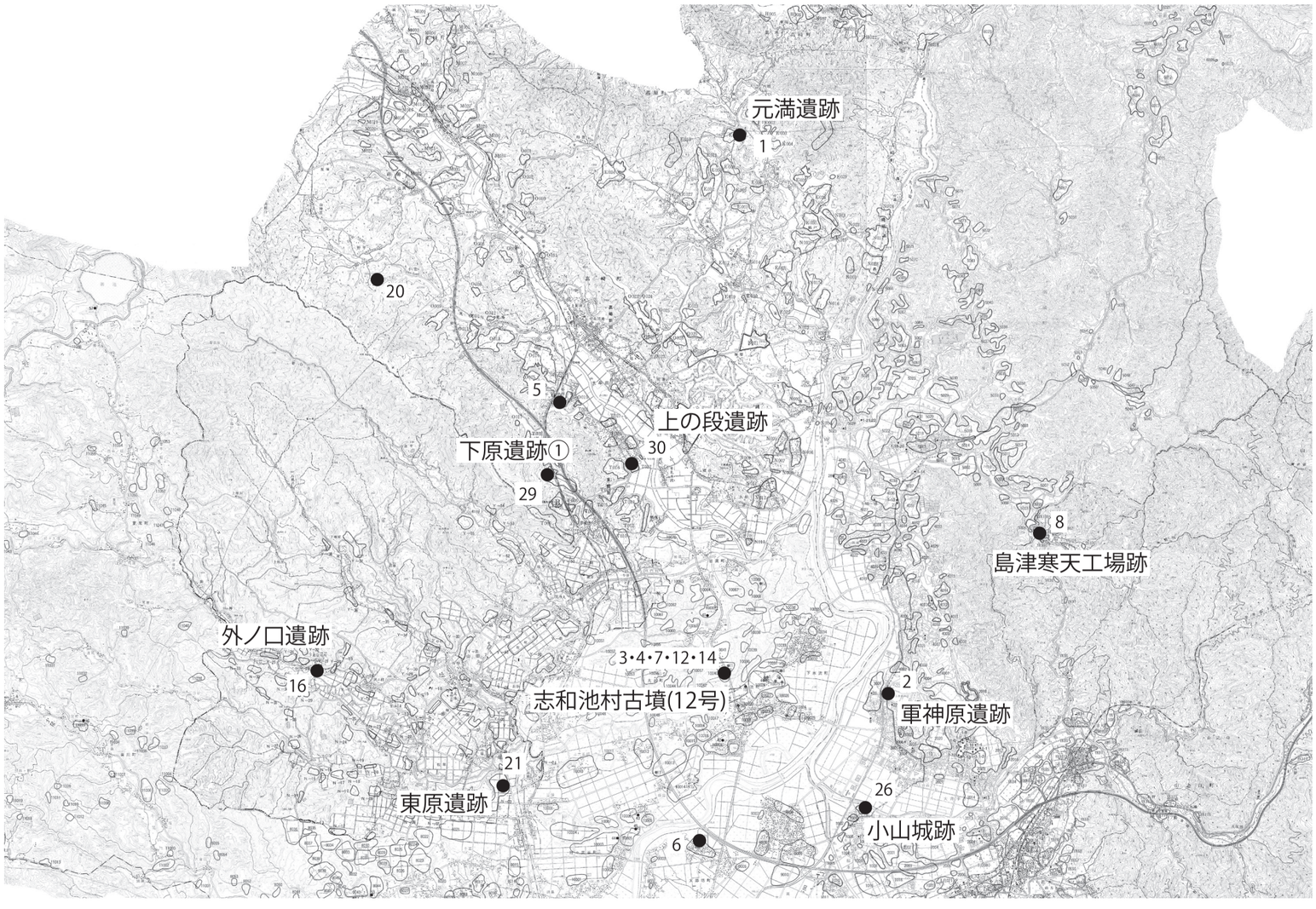
試掘・確認調査は民間事業において 29 地点、公共事業では 10 事業・23 地点の試掘・確認調査を実施した。民間事業では大規模太陽光発電施設、個人住宅等が比較的多く、公共事業では道路拡幅、農業基盤整備事業（土層改良・天地返し）が中心となる。これらの試掘・確認調査のうち、31 件（2 件は地中レーダー探査）を国・県の補助事業として実施した。

文化財保護法に基づく発掘届出（文化財保護法第 93 条関係。以下、法と略記）は 20 件、発掘通知（法第 94 条関係）は 25 件を宮崎県教育委員会へ進達・通知した。宮崎県教育委員会からの通知内訳は、記録保存のための発掘調査 10 件、工事立会い 13 件、慎重工事 19 件、処理中 3 件である。発掘調査に関しては、都城市教育委員会が主体となった調査が 7 件（2 件は平成 25 年度に法 93 条・94 条の届出・通知を実施）、協議中の案件が 2 件、宮崎県埋蔵文化財センターが主体となった調査が 3 件である。

調査組織は次のとおりである。

調査主体　都城市教育委員会
　教育長　　黒木哲徳
　教育部長　　児玉貞雄
　文化財課長　新宮髙弘
　副課長　　松下述之
　主幹　　桒畑光博
　調査担当　　桒畑光博　栗山葉子　近沢恒典　山下大輔　中園剛史　原栄子　早瀬航
　庶務　　松村美穂（～ 2014.4）
　　畑中夏奈（2014.6 ～）

1）早田勉．2006．8.4 都城盆地とその周辺に分布するテフラ（火山灰）.「都城市史　資料編　考古」：609-629．都城市.
2）　テフラの年代は 1）の暦年較正年代を用いている。



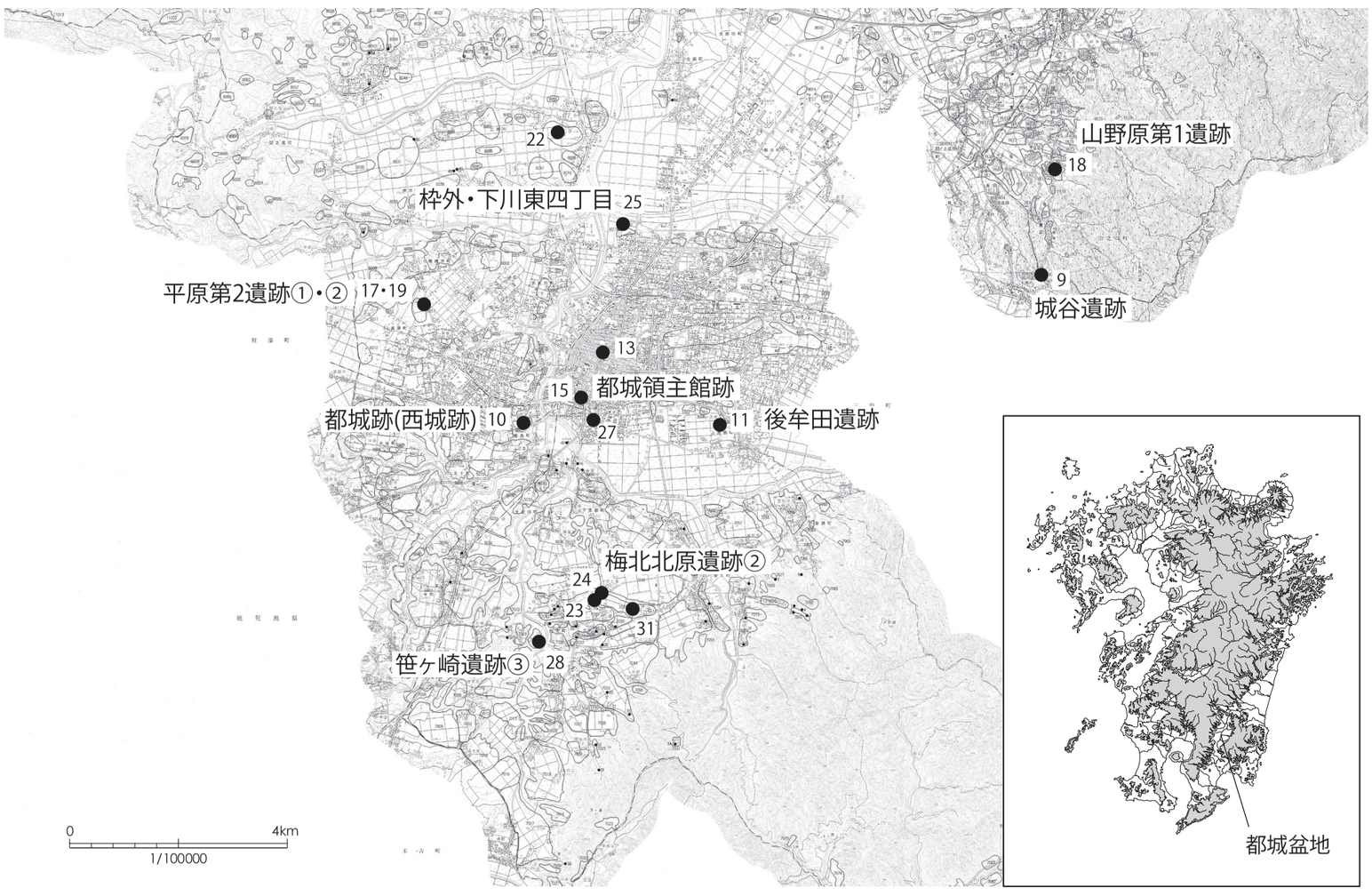




図 1. 試掘・確認調査地点（No, は表 1 と一致）

表 1.　試掘・確認調査一覧

| No, | 遺跡名 | 所在地 | 調査原因 | 調査期間 | 主な時代 | 主な遺構・遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 元満遺跡 | 高崎町江平3362-1ほか | その他開発(大規模太陽光発電施設) | 4/14 | 弥生 | 袋状土坑・土器 | |
| 2 | 軍神原遺跡 | 高城町穂瀬坊2492 | その他建物(屋内競技場) | 4/23 | 縄文 | 集石遺構・礫 | 新規発見 |
| 3 | 志和池村古墳(12号)(屏風谷第1遺跡) | 上水流町2904-1ほか | 個人住宅 | 5/8 | — | 反応あり | 地中レーダー |
| 4 | 志和池村古墳(12号)(屏風谷第1遺跡) | 上水流町2904-1ほか | 個人住宅 | 5/13～28 | 弥生・中世・近世 | 土坑・溝状遺構・土器 | |
| 5 | 浮城跡 | 高崎町大牟田5450-1ほか | 土砂採取(ボラ取り) | 6/13 | なし | なし | |
| 6 | 太郎坊中原遺跡 | 太郎坊町1267ほか | 分譲住宅 | 6/19 | なし | なし | |
| 7 | 志和池村古墳(12号)(屏風谷第1遺跡) | 上水流町2904-1ほか | 個人住宅 | 6/19～7/7 | 弥生・中世・近世 | 塚状遺構・硬化面 | |
| 8 | 島津寒天工場跡(山之口大丸遺跡) | 山之口町山之口1640-1 | その他開発(手摺等整備) | 6/24～30 | 近世・近代 | 竈跡 | |
| 9 | 城谷遺跡(梶山城跡) | 山之口町富吉7529-6ほか | その他開発(大規模太陽光発電施設) | 6/24・25 | 中世・近世 | 曲輪・切岸状遺構 | |
| 10 | 都城跡(四城跡) | 都島町774 | 下水道管付設 | 7/17・18 | 中世・近世 | 柱穴・土坑 | |
| 11 | 後牟田遺跡 | 上長飯町2263ほか | その他建物(福祉施設) | 7/23 | 中世? | 水田跡? | |
| 12 | 志和池村古墳(12号)(屏風谷第1遺跡) | 上水流町2905-2ほか | 個人住宅 | 9/8～10 | | 反応あり | 地中レーダー |
| 13 | 中町遺跡 | 中町119 | その他開発(中心市街地中核施設) | 9/25 | 中世・近世 | 溝状遺構?・焼土層・陶磁器・瓦片 | |
| 14 | 志和池村古墳(12号)(屏風谷第1遺跡) | 上水流町2905-2ほか | 個人住宅 | 9/29～10/1 | 中世・近世 | 硬化面・土器 | |
| 15 | 都城領主館跡 | 姫城町22 | 校舎大規模改造(耐震) | 10/6 | | 竪穴状遺構? | |
| 16 | 外ノ口遺跡 | 山田町山田1121-1 | 道路拡幅 | 10/7 | 中世・近世 | 溝状遺構・土師器 | 新規発見 |
| 17 | 平原第2遺跡① | 蓑原町8522ほか | 店舗 | 10/8・9 | 中世? | 柱穴・土坑 | |
| 18 | 山野原第1遺跡 | 山之口町富吉6160-6 | 農業関連事業(畜舎) | 10/23・24 | 古墳・古代・中世 | 柱穴・土坑・硬化面・土師器 | |
| 19 | 平原第2遺跡② | 蓑原町8522ほか | 店舗 | 10/27・28 | 中世?・近世? | 柱穴・土坑 | |
| 20 | 枠外・高崎町前田 | 高崎町前田3990-14ほか | その他開発(大規模太陽光発電施設) | 10/27・28 | なし | なし | |
| 21 | 東原遺跡 | 山田町中霧島3356-1ほか | 店舗 | 10/30・31 | 弥生 | 土器 | |
| 22 | 小松尾遺跡 | 乙房1911 | 農業基盤整備事業(天地返し) | 11/18 | なし | なし | |
| 23 | 梅北北原遺跡① | 梅北町1855-1ほか | 農業基盤整備事業(天地返し) | 11/26 | なし | なし | |
| 24 | 梅北北原遺跡② | 梅北町1870 | 農業基盤整備事業(天地返し) | 12/3 | なし | なし | 液状化痕跡 |
| 25 | 枠外・下川東四丁目 | 下川東四丁目3117ほか | その他開発(駐車場) | 12/17・18 | なし | なし | |
| 26 | 小山城跡 | 高城町桜木1403-1(南方神社) | その他開発(説明版) | 1/6 | 中世? | 溝状遺構 | |
| 27 | 南屋舗跡 | 姫城町3165-1ほか | その他開発(土地鑑定) | 1/15 | 中世・近世 | 柱穴・溝状遺構・土師器・陶磁器・薩摩焼 | 新規発見 |
| 28 | 笹ヶ崎遺跡③ | 梅北町1091-5ほか | その他開発(太陽光発電施設) | 1/16 | 中世 | 溝状遺構・土師器 | |
| 29 | 下原遺跡① | 高崎町1460-1ほか | 土砂採取(ボラ取り) | 2/4 | 縄文・古代 | 柱穴・土器・土師器・製塩土器・石器 | |
| 30 | 上の段遺跡 | 高崎町772-6ほか | 土砂採取(ボラ取り) | 2/5 | 古墳 | 竪穴住居跡?・土師器 | |
| 31 | 梅北北原遺跡⑤ | 梅北町1781-4市道上 | 道路改良 | 2/5～10 | 弥生・古代・中世 | 竪穴住居跡・土坑・柱穴・土器・石器・陶磁器 | |



# 2.　元満遺跡

所 在 地　高崎町江平 3362-1 ほか　　調査面積　16㎡
調査原因　大規模太陽光発電施設　　担 当 者　近沢恒典
調査期間　2014.4.14　　調査後の措置　現状保存

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地北部、炭床川沿いに形成された成層シラス台地面・火山灰砂台地面に立地している。現況は雑木林であり、西→東へと緩やかに傾斜している。また、開発予定地の隣接地では、1971 年（昭和 46 年）の造成工事中、押型文土器が発見・採集されている[1)]。

**調査の結果**　トレンチ 4 箇所を設定し、重機にて表土を除去した後、人力で掘り下げを行い、地下の状況を確認した。いずれも 6 層上面にて遺構確認を行い、1T では桜島 11 テフラ濃集層（11 層）の下まで掘り下げた。当該地は霧島御池軽石の堆積が不安定であり、黒色土中にブロック状に混ざる状態（6 層）であった。

2・4T では 4 層より弥生土器の小片が出土し、2T では 6 層より掘り込まれた土坑が検出された。土坑の開口部径は 92cm、底面径は 118cm、掘り込み面からの深さは 156cm、底面から開口部へ向けて狭くなる断面形状であり、袋状土坑と考えられた。3T では黒色土層（7 層）の一部まで削平されていた。1T では遺構、遺物の出土は確認されなかった。

以上の結果より、開発予定地中央の 2・4T 付近において、良好な状態の弥生時代の遺跡が存在している可能性が高いと判断された。

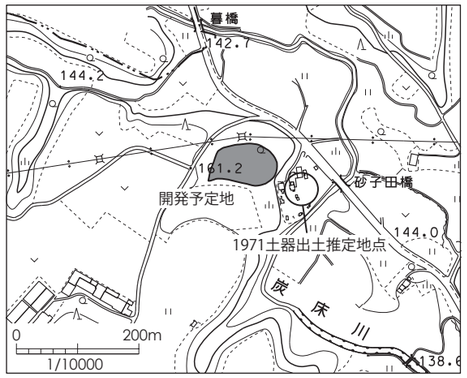



図 1.　調査区位置

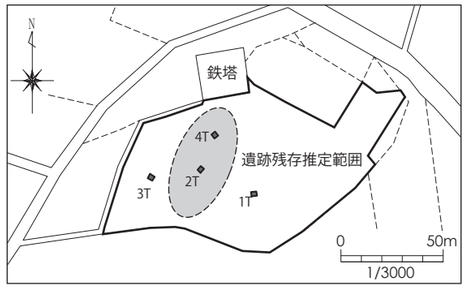
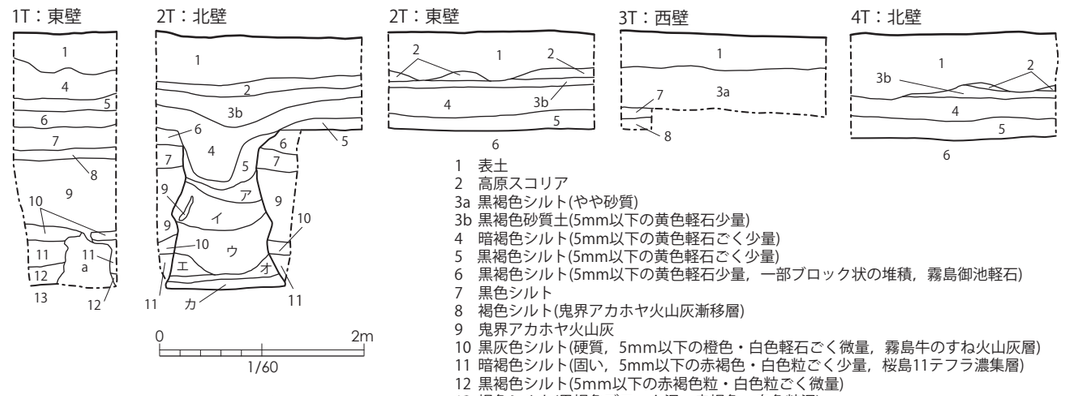



図 2.　トレンチ配置

1）高崎町．1990.「高崎町史」




1　表土
2　高原スコリア
3a　黒褐色シルト(やや砂質)
3b　黒褐色砂質土(5mm以下の黄色軽石少量)
4　暗褐色シルト(5mm以下の黄色軽石ごく少量)
5　黒褐色シルト(5mm以下の黄色軽石ごく少量)
6　黒褐色シルト(5mm以下の黄色軽石少量，一部ブロック状の堆積，霧島御池軽石)
7　黒色シルト
8　褐色シルト(鬼界アカホヤ火山灰漸移層)
9　鬼界アカホヤ火山灰
10　黒灰色シルト(硬質，5mm以下の橙色・白色軽石ごく微量，霧島牛のすね火山灰層)
11　暗褐色シルト(固い，5mm以下の赤褐色・白色粒ごく少量，桜島11テフラ濃集層)
12　黒褐色シルト(5mm以下の赤褐色粒・白色粒ごく微量)
13　褐色シルト(黒褐色ブロック混，赤褐色・白色粒混)

a　褐色シルト(しまり弱，10-12層ブロック混，樹根)
ア　黒褐色砂質土(しまり弱，5mm以下の黄色軽石微量)
イ　暗褐色砂質土(しまり弱，5mm以下の黄色軽石ごく微量，炭化物混)
ウ　黒褐色砂質土(しまり弱，5mm以下の黄色軽石・アカホヤブロック微量)
エ　暗褐色砂質土(しまり弱，5mm以下の黄色軽石微量，アカホヤ粒子ごく少量)
オ　暗褐色砂質土(しまり弱，5mm以下の黄色軽石・アカホヤブロック・アカホヤ粒子やや多)
カ　黒褐色砂質土(しまり弱，5mm以下の黄色軽石・アカホヤブロック少量)

図 3.　トレンチ土層

# 3. 軍神原遺跡

| | | | |
|---|---|---|---|
| 所 在 地 | 高城町穂満坊 2492<br>（高城運動公園） | 調査面積 | 8㎡ |
| | | 担 当 者 | 近沢恒典 |
| 調査原因 | 屋内競技場 | 調査後の措置 | 記録保存 |
| 調査期間 | 2014.4.23 | | |

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地北部、大淀川右岸に形成された成層シラス台地面（高城台地）の端部に立地している。1947 年（昭和 22 年）撮影の米軍撮影航空写真では北へ下る谷地形にそった段々畑がみられる。現況は高城運動公園内の芝生広場であり、1974 ～ 1981 年（昭和 49 ～ 56 年）の公園整備に伴い大幅に造成されている。ボーリング（Bor）No,1 ～ 3・5・8 では表土直下が岩盤となるが、No,4・6 では霧島御池軽石層以下の層が確認される。当該地は「周知の埋蔵文化財包蔵地」外であったが、ボーリング調査結果を勘案し、削平されていない部分において試掘調査を実施した。

**調査の結果**　トレンチ 2 箇所を設定し、重機にて表土を除去した後、人力で掘り下げを行い、地下の状況を確認した。1T では暗褐色土層（8 層）より赤化した礫が 30 点ほど出土した。トレンチ北東部では 30㎝程度のやや大きめな礫とこぶし大の礫の集中が見られ、集石遺構の一部と考えられた。遺物は出土していないが、桜島 11 テフラ濃集層（7 層）の直下層に位置するため、縄文時代早期の遺構と把握した。2T では霧島御池軽石層が 2m と厚く堆積し、層序も西へ向かい下る。遺構・遺物は確認されていない。

これらの状況より、開発予定地には削平された南側と西側の台地最端部を除いたボーリング No,6 付近にのみ、遺跡が残存している可能性が高いと判断された。また、この結果に基づき「軍人原遺跡」（縄文時代・散布地）として新規遺跡の登録を行った。

試掘に基づく協議の結果、記録保存を目的とする発掘調査が実施され、縄文時代早期土器・石器・集石遺構の出土と共に、細石器と草創期土器片の出土が確認された。なお、発掘調査結果をもとに遺跡の範囲を若干改定したほか、遺跡名称も正確な小字表記に基づく「軍神原遺跡」へと改称した。

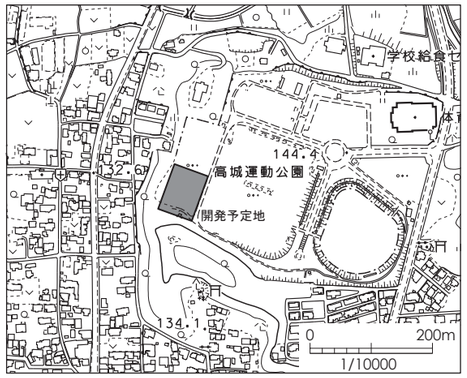



図 1. 調査区位置

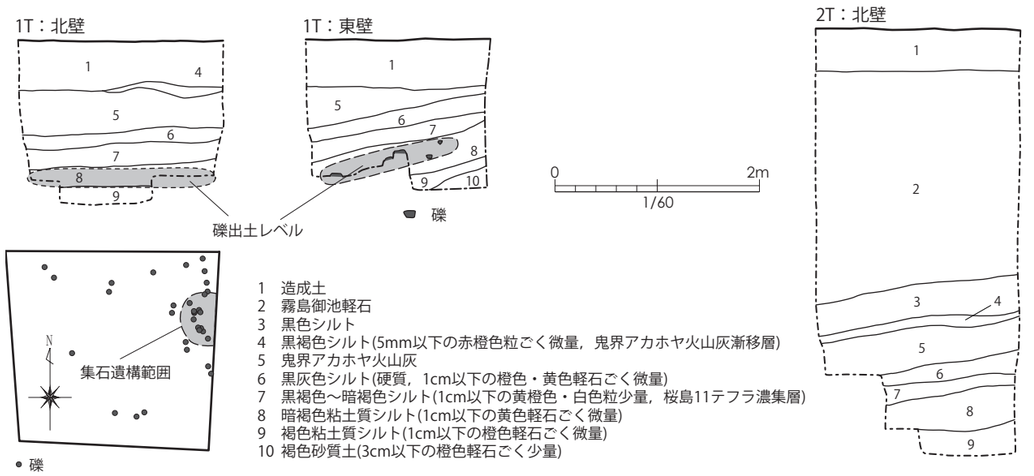



図 2. トレンチ平面・土層



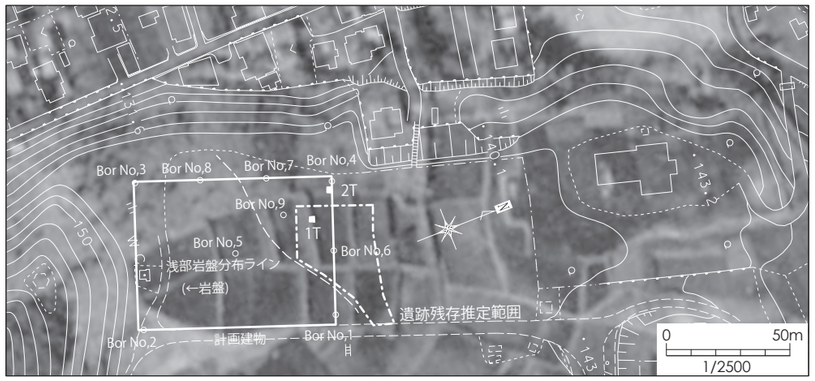


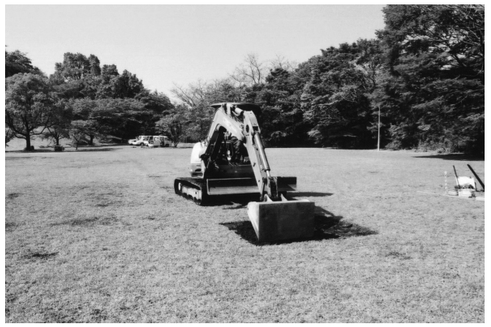

図 3. トレンチ配置
※背景は 1947 年米軍撮影空中写真
（国土地理院所管の写真を使用）

図版 1.　1T（南から）

図版 2.　1T：集石遺構

図版 3.　1T：礫出土状況

図版 4.　2T（南から）



図版 5.　重機使用状況

図版 6.　作業状況

# 4. 県指定史跡志和池村古墳（12 号）/（屏風谷第 1 遺跡）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 所 在 地 | 上水流町 2904-1 ほか | 調査面積 | 178㎡ |
| 調査原因 | 個人住宅 | 担 当 者 | 近沢恒典・桒畑光博 |
| 調査期間 | 2014.5.8/5.13-28/6.19-7.7/ 9.8-10/9.29-10.1 | 調査後の措置 | 現状保存（一部記録保存） |

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地北部、庄内川左岸から大淀川左岸に沿って、東西に細長く展開する成層シラス台地面（谷頭台地）の東端部に位置している。東に一段下った河岸段丘面には、前方後円墳を含む志和地村古墳群の分布中心域があり、地下式横穴墓も多数確認される。開発予定地は 1934 年（昭和 9 年）に「志和池村古墳」として県指定史跡となっている。

指定地番の現況は平坦な宅地及び畑地であり、宅地と畑地の境界上に径約 4 m・高さ約 1m の墳丘が残存している。既存住宅の建設にあたっては、2009 年（平成 21 年）に確認調査が実施され弥生時代の土器片、中世と考えられる道路状遺構が確認されている。また、道路を挟んだ東側には 9・10・11 号墳があったが、削平等によって消滅し、指定解除されている[1)]。

**調査の結果**　開発予定地付近には地下式横穴墓も多く確認されているため、宮崎県教育委員会文化財課・宮崎県立西都原考古博物館の協力を得て、最初に地中レーダー探査を行った。確認調査はレーダー探査の結

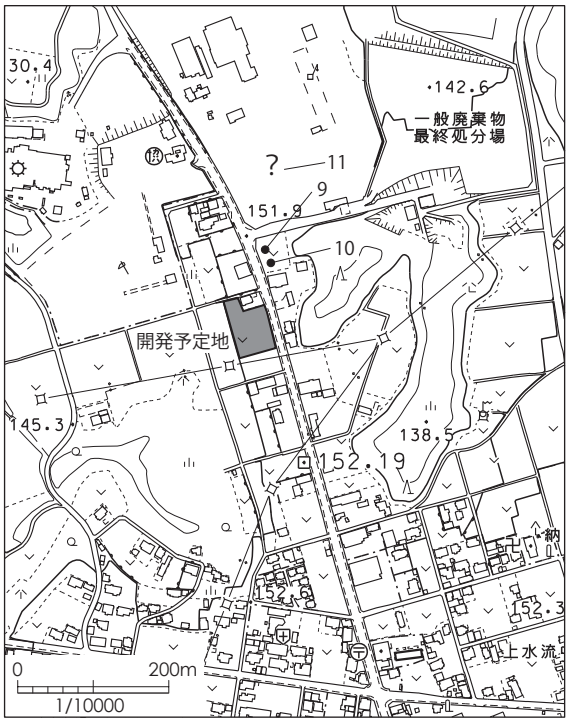



図 1. 調査区位置

1）都城市教育委員会．2001.「志和池村古墳・9 号墳」

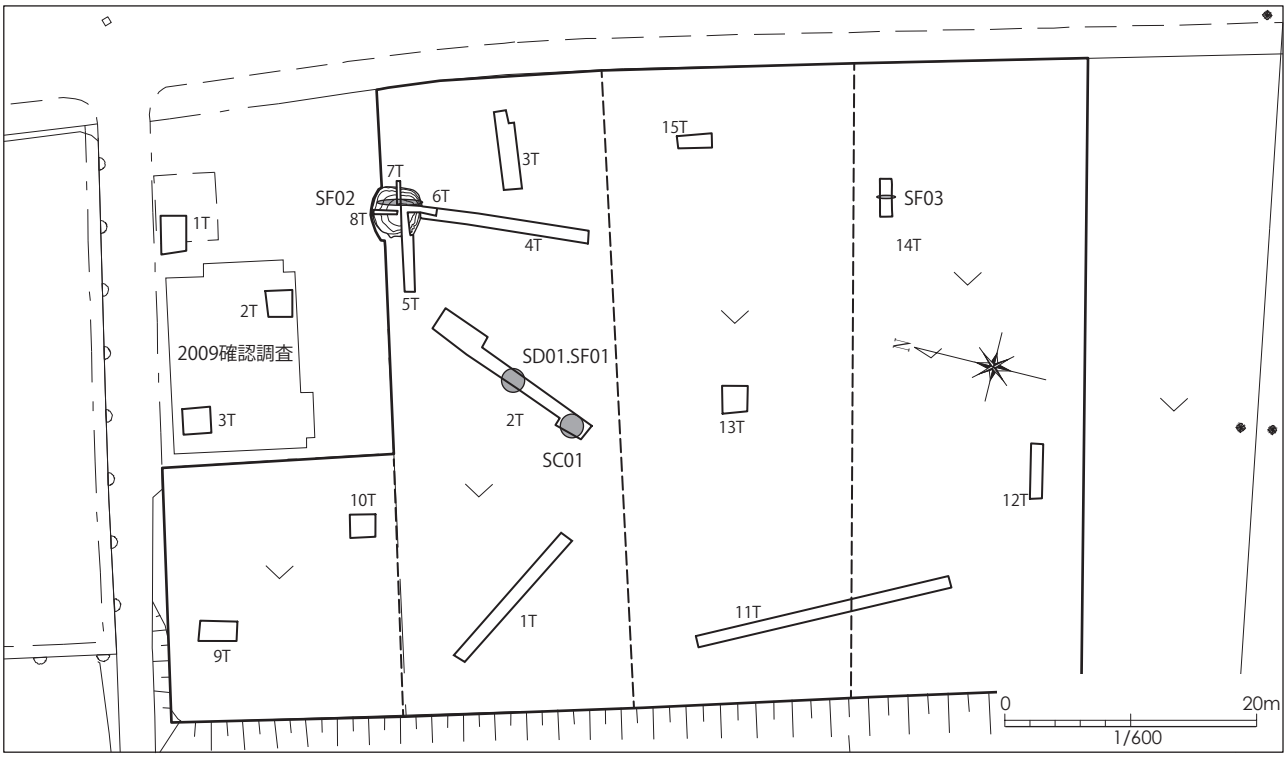
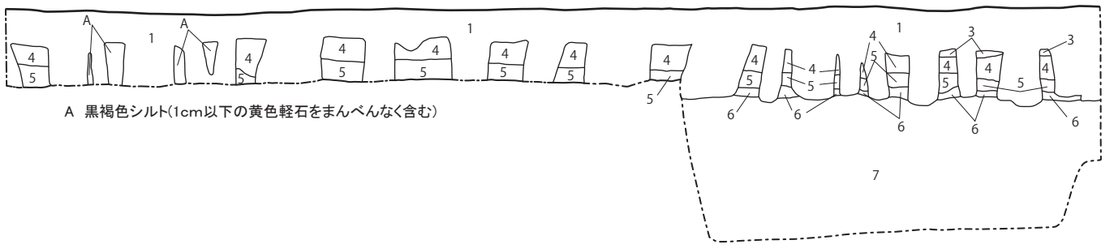



図 2. トレンチ配置

1T：西壁

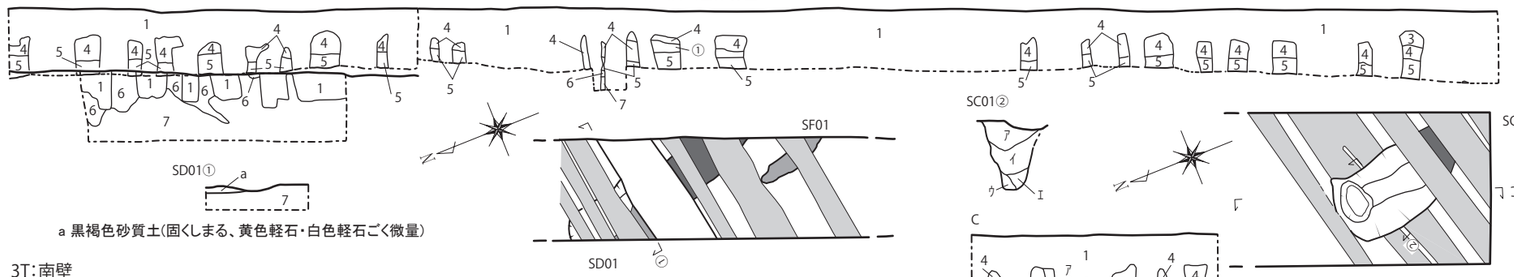


A　黒褐色シルト(1cm以下の黄色軽石をまんべんなく含む)

1　耕作土
2　黒色シルト(5mm以下の灰白色軽石を含む, 灰白色軽石は濃集部分がパッチ状になるが一次堆積ではない, 桜島文明軽石?)
3　黒褐色シルト(3mm以下の黄色軽石ごく微量、微細な白色軽石・赤色粒ごく微量)
4　黒色シルト(1cm以下の黄色軽石微量)
5　黒褐色シルト(1cm以下の黒色軽石ごく少量)
6　黒褐色シルト(固い、2cm以下の黄色軽石多量)
7　霧島御池軽石

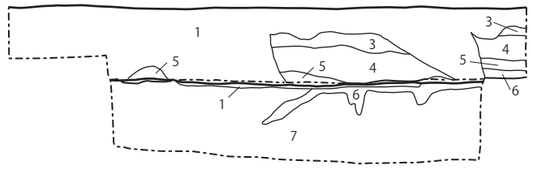
ｱ　黒色シルト(5mm以下の黄色軽石ごく微量)
ｲ　黒色シルト(1cm以下の黄色軽石ごく少量)
ｳ　黒色シルト(ややしまる、1cm以下の黄色軽石やや多、ブロック状の黄色軽石混)
Ⅰ　黒色シルト(やわらかい、黄色軽石ごく微量、樹根?)

2T：東壁



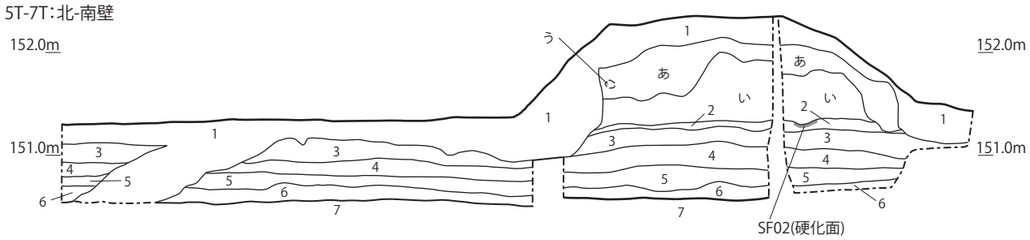

a 黒褐色砂質土(固くしまる、黄色軽石・白色軽石ごく微量)

3T：南壁

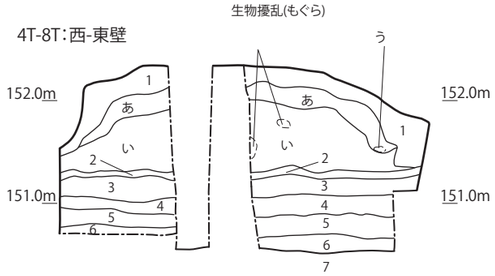


硬化面
遺構検出範囲
攪乱(トレンチャー)

5T-7T：北-南壁

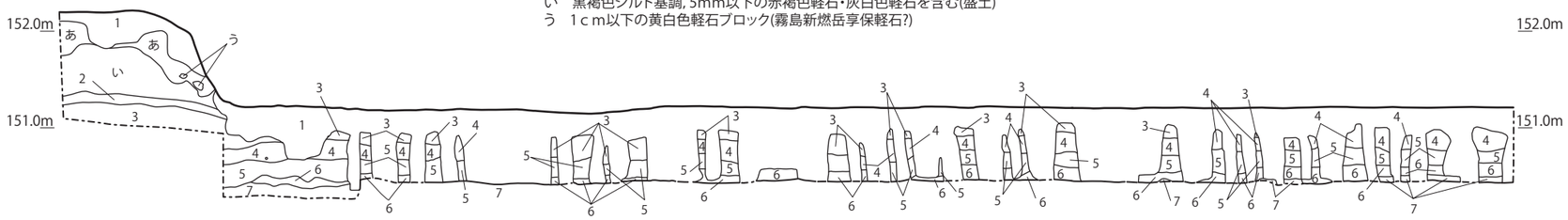



4T-8T：西-東壁

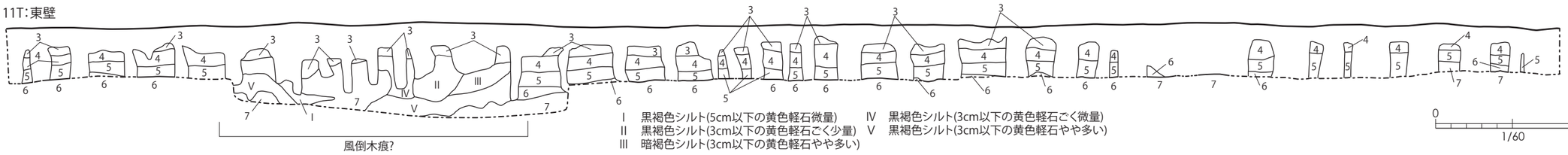



4T：東壁

あ　黒褐色砂質シルト(1mm以下の黄白色硬質軽石(霧島新燃岳享保軽石?)含む, 植物根著しい, モグラによるビニールの引き込みも認められる)(盛り土)
い　黒褐色シルト基調, 5mm以下の赤褐色軽石・灰白色軽石を含む(盛土)
う　1ｃm以下の黄白色軽石ブロック(霧島新燃岳享保軽石?)

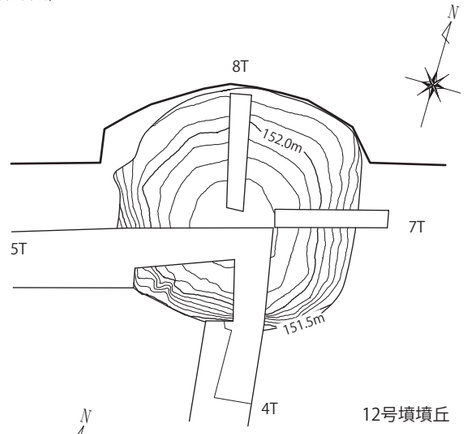



11T：東壁

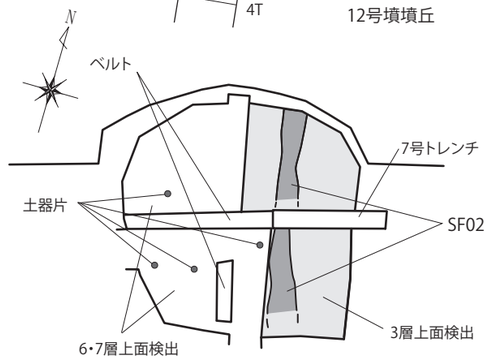



Ⅰ　黒褐色シルト(5cm以下の黄色軽石微量)
Ⅱ　黒褐色シルト(3cm以下の黄色軽石ごく少量)
Ⅲ　暗褐色シルト(3cm以下の黄色軽石やや多い)
Ⅳ　黒褐色シルト(3cm以下の黄色軽石ごく微量)
Ⅴ　黒褐色シルト(3cm以下の黄色軽石やや多い)

0　2m
1/60




12号墳墳丘




12号墳墳丘下

0　4m
1/100

図 3.　トレンチ土層・平面

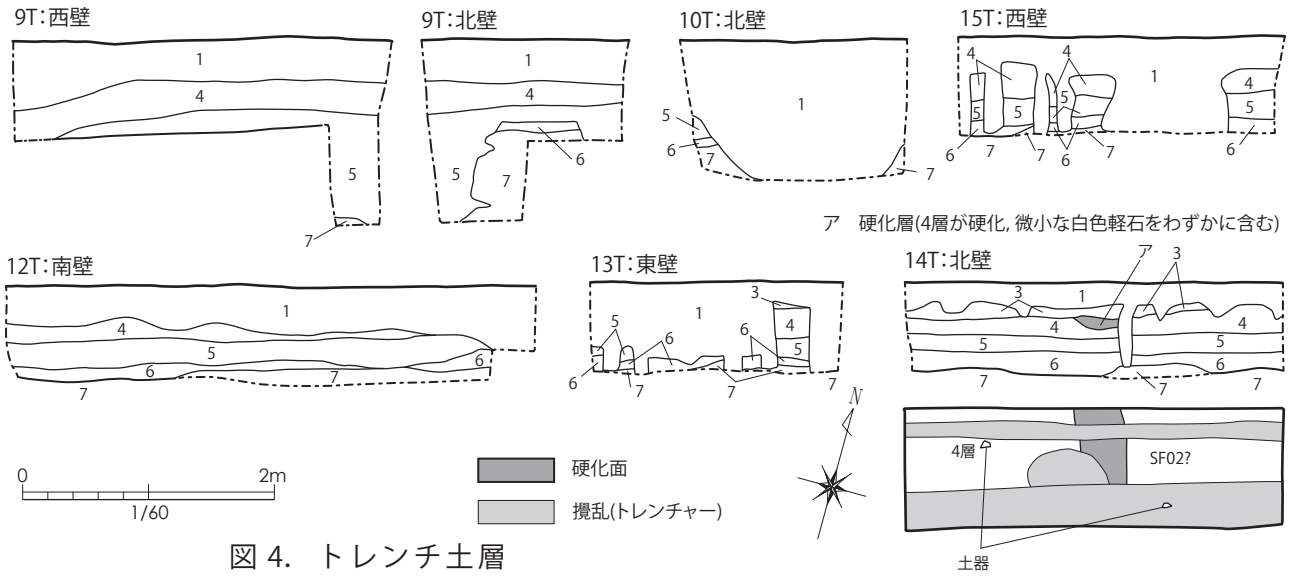



図 4.　トレンチ土層

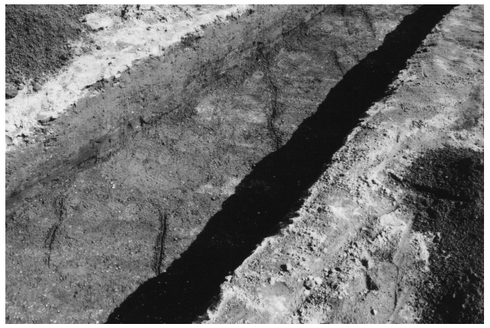
果を踏まえ、レーダー反応のあった部分を中心にトレンチを設定する事とした。また、調査にあたっては県文化財課の指導・協力をいただいている。墳丘以外のトレンチでは、重機を使用して表土を除去した後、人力で掘り下げを行い、地下の状況を確認した。基本的には霧島御池軽石漸移層（6 層）・霧島御池軽石層（7 層）にて遺構確認を実施したが、同層よりも深い位置でレーダー反応がみられた部分に関しては、その深度まで掘り下げを行った。

**畑地部**　いずれのトレンチも牛蒡深耕（トレンチャー）による撹乱を受けていた。1・3・9・10・12・13・15T では遺構・遺物の出土は確認されなかった。これらのトレンチで観察されたレーダー反応は、樹根等の生物擾乱や風倒木、現代の芋貯蔵穴が要因と考えられた。2T では北端にて土坑（SC01）、中央部にて南東→北西方向に延びる硬化面（SF01）、下部に硬化層が形成される浅い溝状遺構（SD01）が確認された。14T では黒色土層（4 層）上面にて南北方向にのびる硬化面（SF03）が検出され、土器片 2 点が出土した。後述する SF02 の延長上に位置するが、層位が異なっている。4T では黒褐色土（3 層）より土器小片 2 点、5T では黒色土（2 層）と 3 層の境にて土器小片 1 点が出土したが、遺構は確認されていない。

**墳丘部**　墳丘を十文字に分割するように 4・5T、7・8T を設定した。層序は上位より表土層（1 層）、黒褐色砂質土（あ層）、黒褐色土（い層）、桜島文明軽石が混じる黒褐色土（2 層）、黒色土（3 層）となる。全体的に多量の根の侵入とモグラ穴による生物擾乱が進行していた。2・3 層は水平堆積であり、畑地部とも共通しており、地山層と捉えられた。あ・い層は黒色土ブロック・灰褐色土・黄白色軽石等が混ざり合った状態であり、造成土と把握される。あ層中の黄白色軽石は霧島新燃享保軽石と考えられ、い層に享保軽石がほとんど含まれない点からは、い層による造成は 18 世紀前半以前の時期と推定された。遺物は 1 層にて昭和 30 ～ 40 年代のビニール製品・薩摩焼等、い層にて粘土塊が出土した。また、トレンチ調査の後、墳丘全体の掘り下げを行った結果、墳丘直下の 2 層上面にて南北方向にのびる硬化面（SF02）が検出され、黒褐色土層（5 層）にて弥生土器の小片数点が出土した。これらの点を時系列に整理した結果、次のような状況が想定された。

① 2 層の形成（桜島文明軽石・1471 年）
②道路状遺構（SF02）
③い層による盛土
④新燃享保軽石の降下（1771 年）
⑤あ層による盛土
⑥ 1 層による盛土・現代

これらの状況より、開発予定地には、密度の薄い包含層及び土坑・溝状遺構等の遺構が残存するものの、牛蒡深耕によりその大半が破壊された状態となっている可能性が高いと判断された。墳丘に関しては、層序や火山灰の関係より、古墳時代の遺構ではなく、中世～近世にかけて築造された塚等であった可能性が高いと考えられた。また、この結果に基づき、当該地における史跡指定が解除された。



図版 1.　2T：SD01・SF01 検出（北から）

図版 2.　2T：SC01（東から）

図版 3.　4T：土層

図版 4.　5T（西から）

図版 5.　墳丘トレンチ（南西から）

図版 8.　4T：墳丘内土層

図版 7.　墳丘：あ層除去（南西から）

図版 8.　墳丘下：SF02 検出（南西から）



# 5. 市指定史跡島津寒天工場跡（山之口大丸遺跡）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 所 在 地 | 山之口町山之口 1640-1 | 調査面積 | 20㎡ |
| 調査原因 | 手摺・昇降用スロープ等設置 | 担 当 者 | 近沢恒典 |
| 調査期間 | 2014.6.24-30 | 調査後の措置 | 現状保存 |

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地北部、青井岳山地の西麓にあり、東流し大淀川に合流する有水川右岸に形成されたシラス台地面の端部に立地している。現況は地元自治公民館が管理する公園となっている。

寒天工場の操業は幕末から明治初期とされており、寒天の大陸輸出による外貨獲得が設置目的とされる。調査事例には① 1937 年（昭和 12）の前田厚による現地調査[1] と② 1981 ～ 2 年（昭和 56 ～ 7 年）の山之口町教育委員会による発掘調査[2] がある。①は地元の人々からの聞き取り調査と現地踏査、②では現状確認のための発掘と石垣の修復がなされている。また、これら調査の後、数度にわたり石垣の設置・修復などの整備がされている。なお、当該地は 1982 年（昭和 57 年）に「島津寒天工場跡」として山之口町指定史跡となり、2006 年（平成 18 年）の合併後は市指定文化財となっている。

**調査の結果**　寒天工場跡及び未調査となっている西

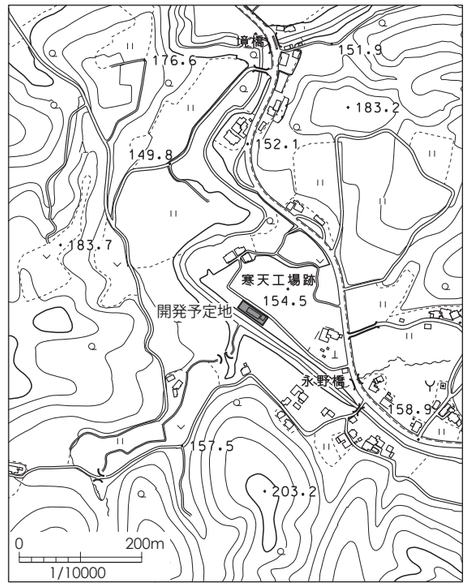



図 1.　調査区位置

1）前田厚．1937.「有水川寒天製造所遺跡及遺物」. 私家版
2）塩水流忠夫．1999．薩摩藩寒天工場経営の現代的意義と遺跡の保存顕彰について．「ふるさとの歴史」：203-221．文昌堂

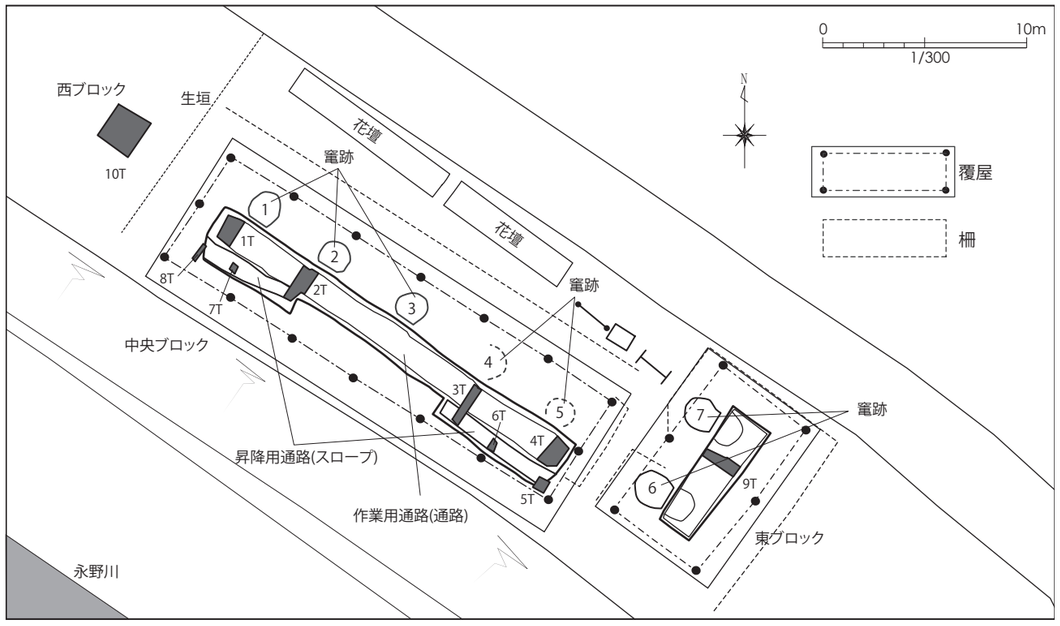



図 2.　トレンチ配置

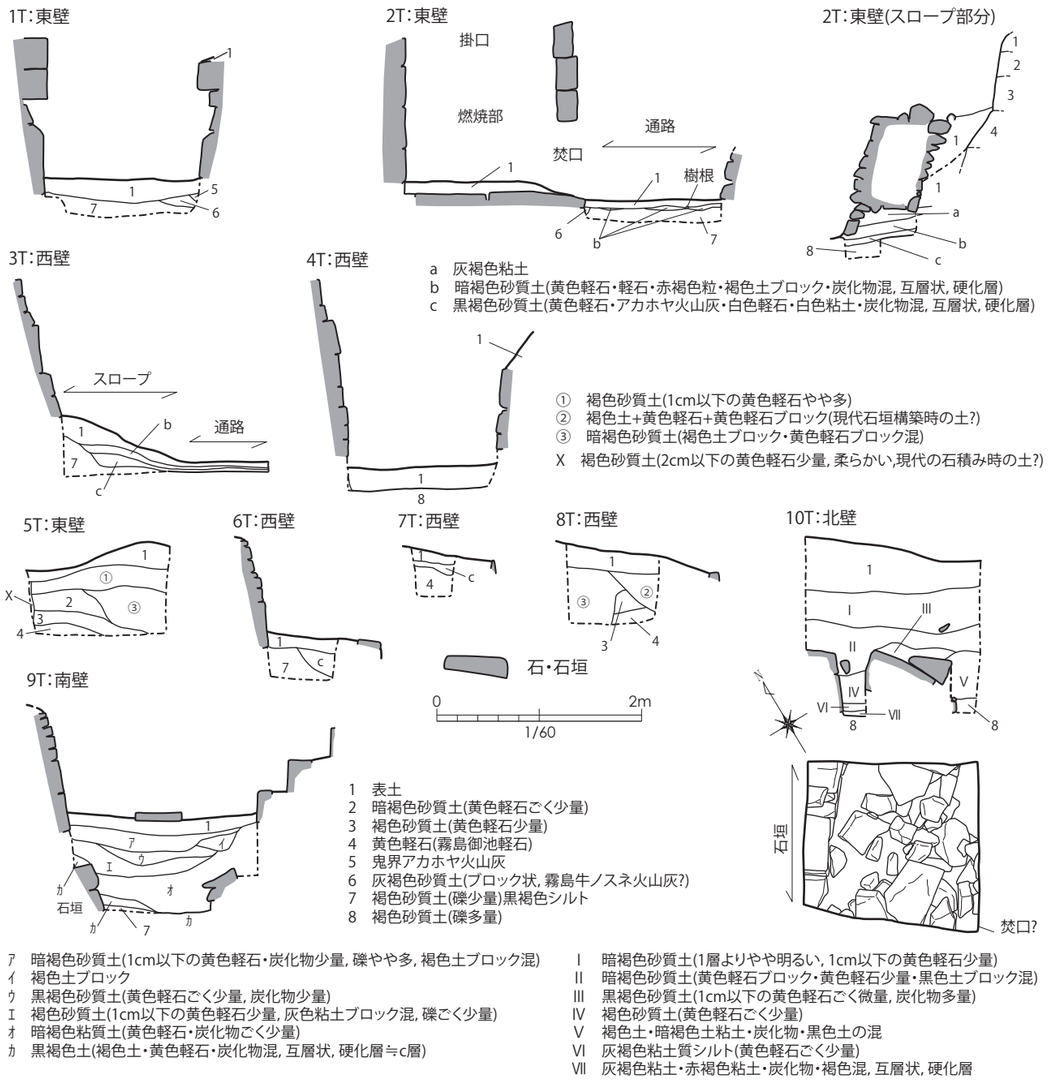



図 3.　トレンチ土層・平面

側（西ブロック）に 10 箇所のトレンチを設定し、人力にて掘り下げを行い、地下の状況を確認した。

**中央ブロック**　1・4T では表土直下が地山層である褐色土層（7・8 層）となる。焚口両脇の石を除いた石垣が表土層の上にある点より、近年の石垣形成である事がわかる。2・3T では表土層の下は黄色軽石や炭化物等が混ざる暗褐色土・黒褐色土（b・c 層）となる。本層は多量の炭化物、互層状の堆積、硬化が進む点より、操業時の作業面と捉えられた。スロープに設定した 2・3・5 ～ 8T では、上位の 5・8T では遺構面はなく、中位より下位の 2・3・6・7T にて硬化層（C 層）が確認された。中央ブロックの東西両端を除いた通路とスロープ部の下位では、操業時の遺構面が残存していると考えられた。

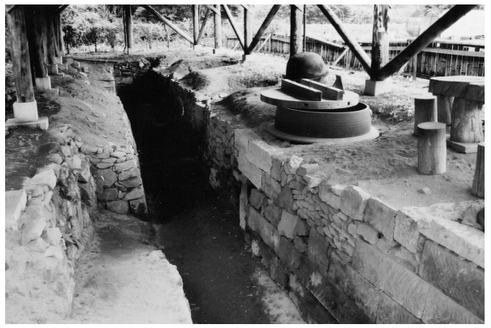
**東ブロック**　9T では表土直下に炭化物や大型の礫を含む黒褐色砂質土層・褐色砂質土層・暗褐色砂質土層（ウ～オ層）があり、その下から硬化した黒褐色土層（カ層）が確認された。層序と様相よりカ層は操業時の作業面、ウ～オ層は廃棄時の埋め土と捉えられた。また、西壁最下部では現代の石垣とは別の二段の石積みが確認された。作業用通路の石垣基部と考えられる。そのため、当ブロックでは既発掘部分以外では良好な遺跡が残存していると考えられた。



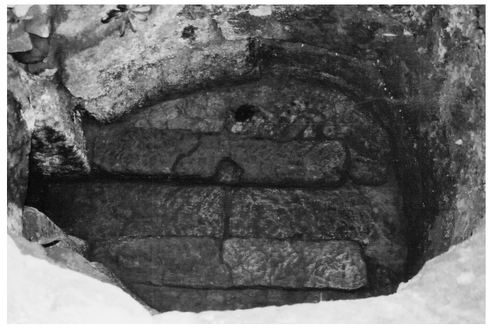
**西ブロック**　10T では表土直下に 9T と同様の炭化物や大型の礫の混じった暗褐色砂質土層・黒褐色砂質土層・褐色砂質土層（Ⅰ～Ⅴ層）があり、その下より操業時の作業面とそれに関連すると考えられる硬化層（Ⅵ・Ⅶ層）が確認された。また、西壁には作業用通路の側壁と考えられる石垣が検出され、南隅には縦 1.5 m程度の直立した石とその脇に石類が観察されない部分が検出された。後者はその様相より焚口付近の可能性が考えられる。

**竈跡**　底面を確認した 2・7 号竈跡の燃焼部底面には、中央部に角柱状に加工した石材による溝状の石組が確認された。②調査の略図（竈番号不明）では、溝と竈壁の間に角柱状の石材が配置されるが、2 号竈跡では小礫、7 号竈跡では加工されたやや大きな石材が配置されていた。個々の竈の構造に若干の相違があると考えられる。石材は目視による確認では凝灰岩と考えられた。

これらの状況より、当遺跡は発掘や石垣構築等により、大きく改変されているが、表土直下には操業時の作業層が残存し、未発掘部分には廃業に伴うと考えられる埋め土が残る等、遺跡を構成する重要な部分については比較的良好な残存状態が保たれていると判断された。



図版 1.　中央ブロック全景（南東から）



図版 2.　2 号竈

図版 3.　2T 層（手前は硬化面）

図版 4.　3T：通路部分土層

図版 5.　9T: 土層（東側）

図版 6.　10T（東から）

# 6. 城谷遺跡（梶山城跡）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 所 在 地 | 山之口町富吉 7529-6 ほか | 調査面積 | 7㎡ |
| 調査原因 | 大規模太陽光発電施設 | 担 当 者 | 桒畑光博・中園剛史 |
| 調査期間 | 2014.6.24-25（確認調査）/ 10.23（縄張り調査） | 調査後の措置 | 協議中 |

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地東縁の山地帯のふもとにあり、沖水川右岸に沿って形成されたシラス台地面・火山灰砂台地斜面（高才原台地）に立地している。また、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「城谷遺跡」であると共に三股町域に主体部をもつ中世城郭「梶山城」の東端部に含まれる。梶山城は都城盆地の東端に位置する盆地内の主要城郭の一つであり、独立性の高い 4 つの曲輪にて構成される[1)]。島津氏一族の樺山氏の築城とされ、高木氏・伊東氏の勢力下であった時期もあるが、多くは島津氏が使用している。なお、梶山城は遺存状況も非常に良好であり、文化・文政年間の編纂資料「庄内地理志」に描かれた絵図との整合性も高く、九州南部域の中世城郭を知る上で重要な城郭となっている。

開発予定地は城域の東端部に位置し、隣接地は一部破壊を受けている。その地形は西→東へと下る細い尾根とその間に形成された谷部からなっている。現況は雑木林である。

**調査の結果**　尾根上に 3 箇所のトレンチを設定し、人力にて掘り下げを行い、地下の状況を確認した。また、確認調査時の周辺踏査にて、堀切や土塁等が確認されたため、宮崎県埋蔵文化財センター福田泰典氏に指導を依頼し、10 月 23 日に東部～北東部にかけての縄張り調査を実施した。

**曲輪 G**　西より土塁・堀・平坦面 7・平坦面 6・平坦面 5 の順で構築され、平坦面 5 の先端は市道に沿って大きく削られている。平坦面 7 と 6 との境に 3T を設定した。霧島御池軽石層（5 層）以上が削平を

1）宮崎県教育委員会．1999.「宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅱ　詳説編」
2）1）掲載の八巻孝夫氏作成縄張り図をもとに、福田泰典氏作成縄張り図及び三股町教育委員会作成梶山城地形測量図を合わせ、都城市教育委員会にて調製した。

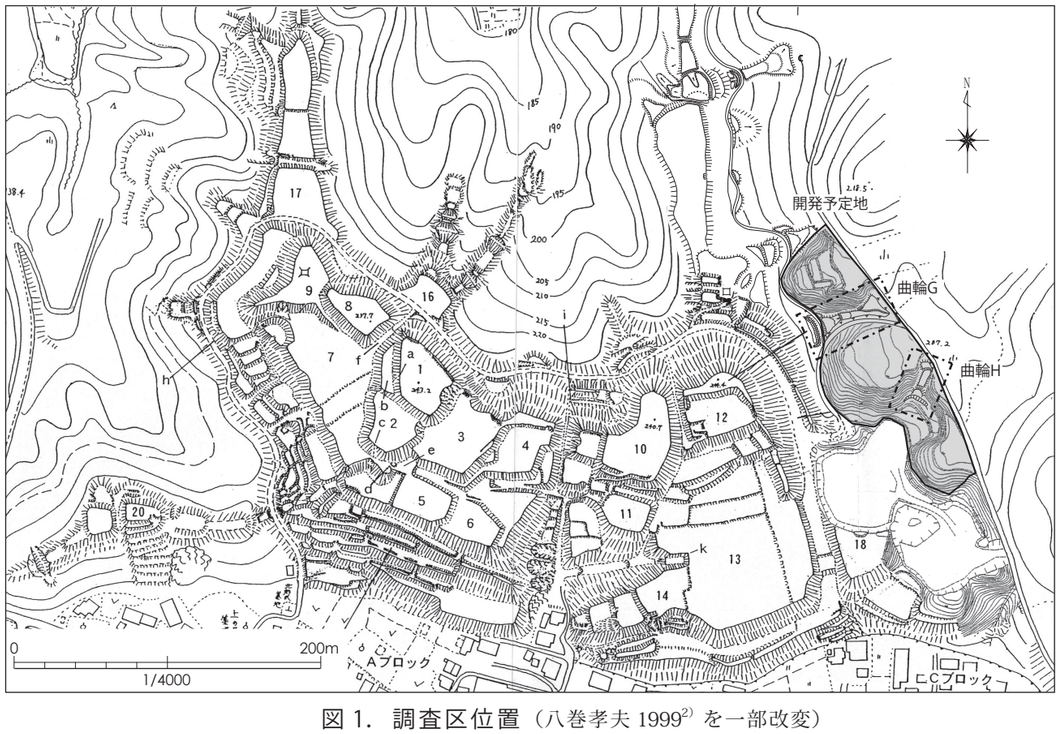
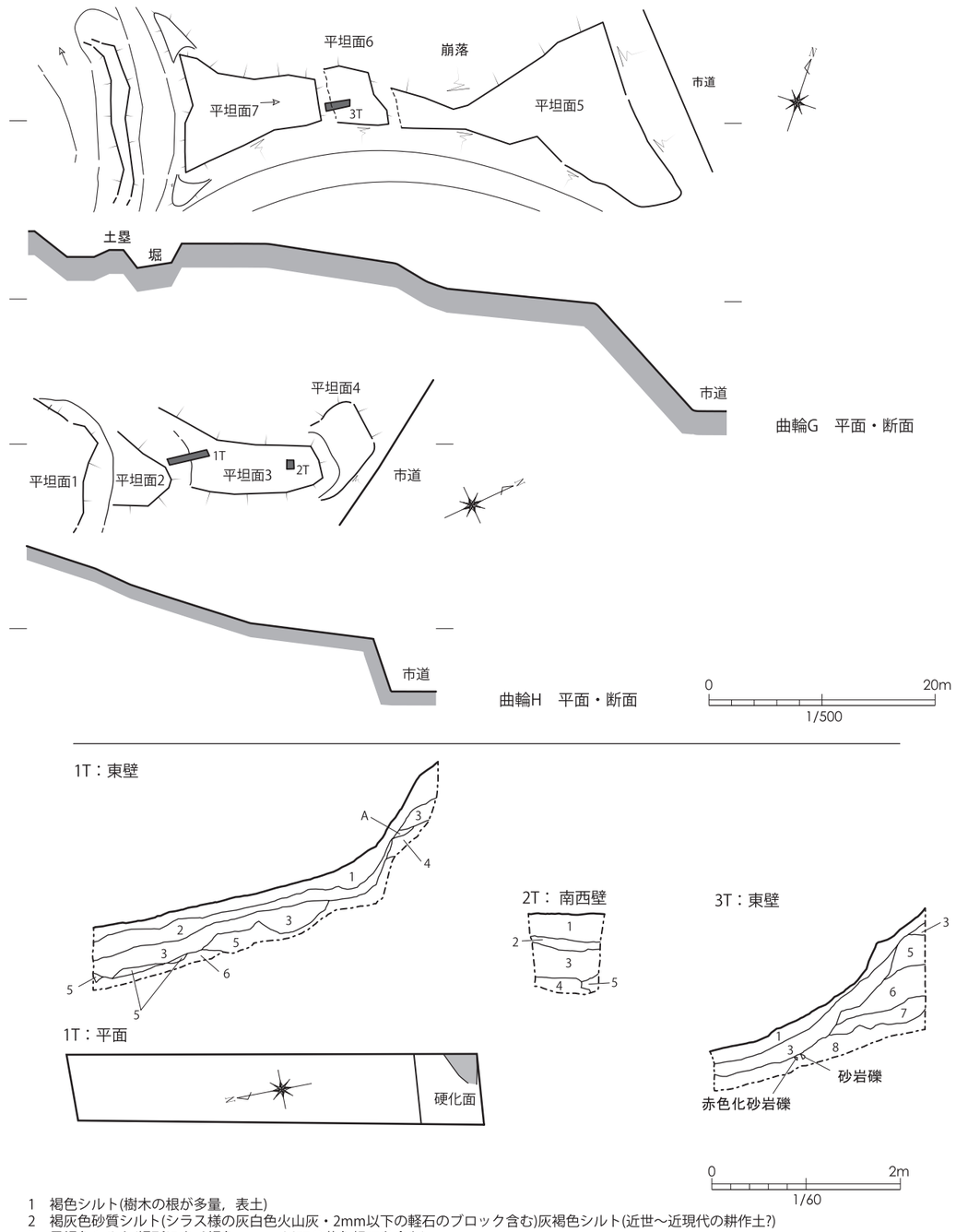



図 1. 調査区位置（八巻孝夫 1999[2)] を一部改変）





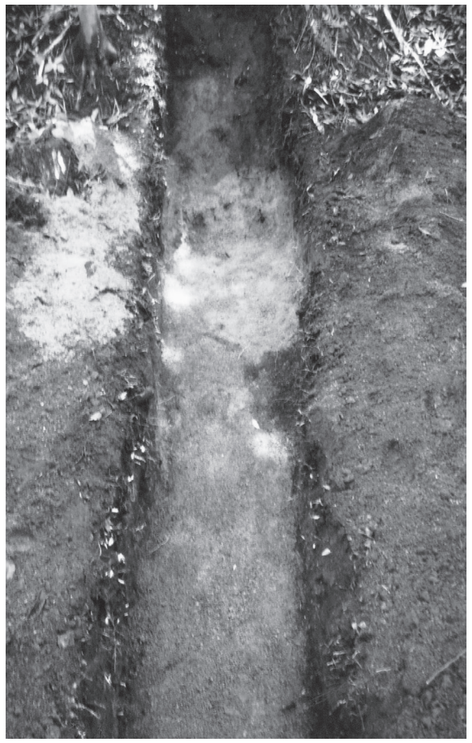

1　褐色シルト(樹木の根が多量，表土)
2　褐灰色砂質シルト(シラス様の灰白色火山灰・2mm以下の軽石のブロック含む)灰褐色シルト(近世～近現代の耕作土?)
3　黒褐色シルト(場所により褐色，5mm以下の黄色軽石を含む)
4　灰オリーブ砂質土(1cm以下の黄色軽石多く含む，霧島御池軽石漸移層)
5　霧島御池軽石(1cm以下の黄色軽石層)
6　黄褐色シルト(鬼界アカホヤ火山灰)
7　青灰色砂質土(牛のすね火山灰)
8　にぶい黄褐色シルト(ローム層)
a　灰黄色砂質土(硬化面，1cm以下の黄色軽石含む)

図 3. トレンチ位置・土層・平面

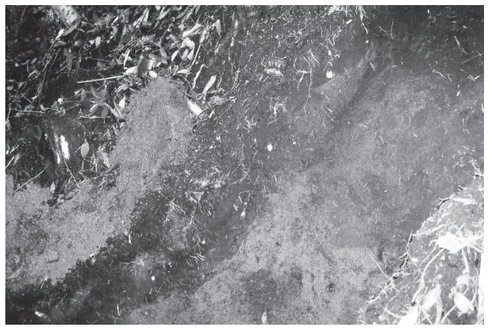
受けていた。霧島牛のすね火山灰層（7 層）の下のにぶい黄褐色土層（8 層）より礫 2 点が出土している。

**曲輪 H**　南西から北東に向けて平坦面 1・平坦面 2・平坦面 3・平坦面 4 の順で構築される。平坦面 4 の先端は市道に沿って大きく削られている。平坦面 2 と 3 との境に形成された切岸状遺構の部分に 1T、平坦面 3 に 2T を設定した。1T では切岸状遺構の上面にて硬化面が検出されている。この硬化面は切岸上面の土止もしくは通路の可能性が考えられた。2T では明確な遺構・遺物の出土は確認されなかった。

これらの状況より、当該地には道路の建設等により破壊されている部分もあるが、三股町域の主体部と一体となる城郭遺構が良好に残存していると判断された。

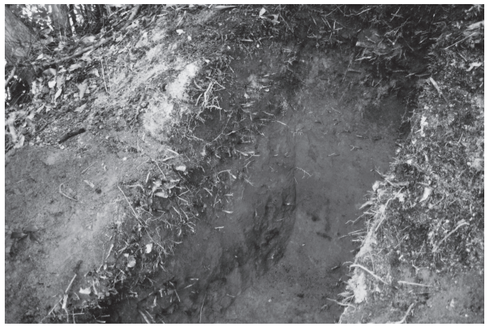


図版 1.　1T



図版 2.　1T：土層

図版 3.　3T（南西から）



図版 4.　3T：土層

図版 5.　土塁



# 7. 都城跡（西城跡）

所 在 地　都島町 774
調査原因　下水道管敷設
調査期間　2014.7.17-18
調査面積　12.5㎡

担 当 者　中園剛史・桒畑光博・近沢恒典
調査後の措置　現状保存

**位置と環境**　開発予定地は中世城郭「都城」の「西城」曲輪内に位置する。「都城」は都城盆地南西部に広がるシラス台地（蓑原台地）の東端部を分割形成した中世城郭であり、大淀川を背後にした「本丸」から西へと城域を展開させる。都城盆地の中核的城郭であり、北郷氏の拠点城郭として継続的に使用された。

「西城」は本丸の西に隣接しており、八巻氏の各曲輪分類[1]では中核グループに属している。1615 年（元和元年）の状況を示すとされる古絵図「竹之下都城御城図」では「台（代）官所」等の記述がみえ、政治的施設の存在が指摘される。江戸後期の編纂資料「庄内地理志」（巻 66）[2]には「西城」に「稲荷」・「荒神」の 2 社の存在が記されており、1796 年（寛政 8 年）には「堀出（立）柱上葺」（稲荷）・「堀立柱上葺」（荒神）から「外家礎茅葺」へ補修したとの記述もみられる。この点からは、「西城」には中世期には政治施設、近世期には信仰施設が存在していたと捉えられる。

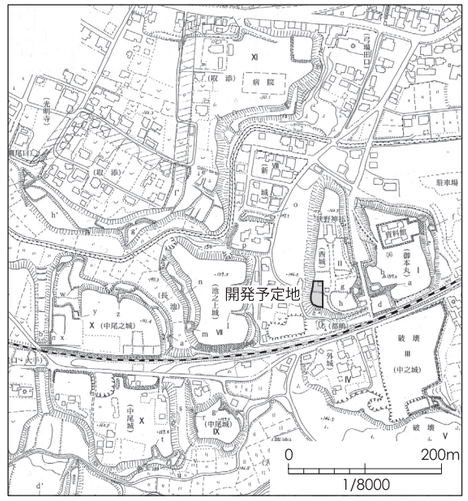



図 1.　調査区位置（八巻孝夫 1991[1] を一部改変）

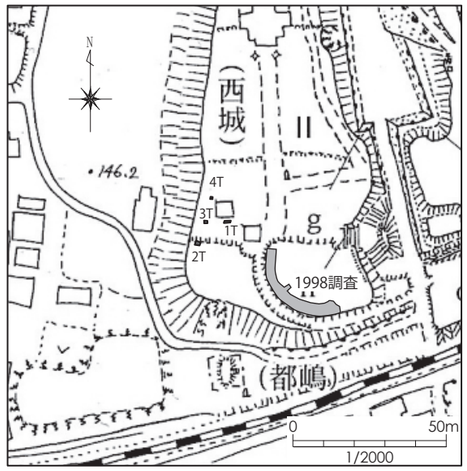



図 2.　トレンチ配置（八巻孝夫 1991[1] を一部改変）

現況は「狭野神社」境内となっており、ほぼ平坦であるが、南側が一段高くなる。1998 年（平成 10 年）に道路拡幅に伴い実施された発掘調査[3]では、竪穴状遺構や土坑墓等が確認されている。霧島御池軽石層が削平されており、遺構検出面は鬼界アカホヤ火山灰層の上の黒色土層であったとも報告されている。

**調査の結果**　トレンチを 4 箇所設定し、人力にて掘り下げ、地下の状況を確認した。1T では表土（a・a' 層）直下が上位を削平された鬼界アカホヤ火山灰層（6 層）となる。6 層上面にて集石遺構、北壁にて浅いピットが確認された。集石遺構は長径 20cm 程度の礫を二重に積んでおり、柱の根石の可能性がある。表土直下のため、比較的新しい時期と考えられた。2T では灰褐色土層（3 層）・黒色土層（4 層）・黒褐色土層（5 層）より中世の土師器片、備前焼片（15 世紀）が出土し、土坑 1 基が検出された。土坑埋土が灰褐色土（3 層）主体となる点、中世土師器小片及び白磁小片（18 世紀以降）が出土している点より、近世後半の所産と考えられた。3・4T では表土直下が上位を削平された 6 層となる。遺構・遺物の出土は確認されていない。

これらの状況より、開発予定地には削平が進むものの、一段高い南側を中心に中世～近世にかけての遺跡が残存している可能性が高いと判断された。

1）八巻孝夫．2004．Ⅲ．主要城館解説 _1. 都城跡．「都城市の中世城館（改訂版）」：15-20．都城市教育委員会
2）都城市．2003．「都城市史　資料編　近世 3」
3）矢部喜多夫．2008．525. 都城跡 _〈西城跡〉．「都城市史　資料編　考古」：413．都城市

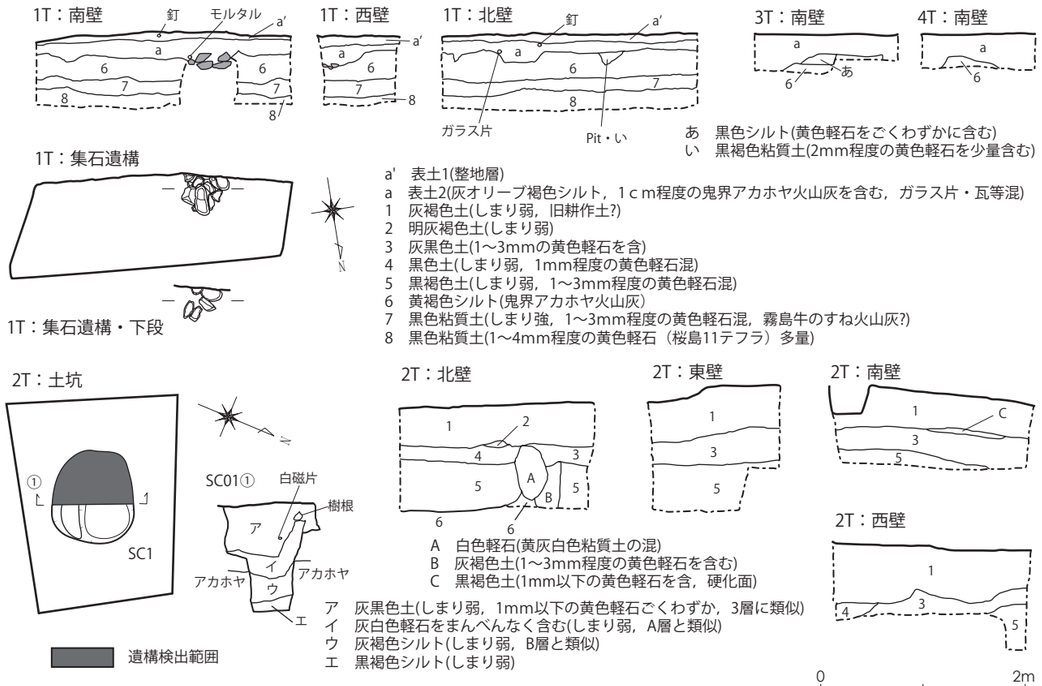
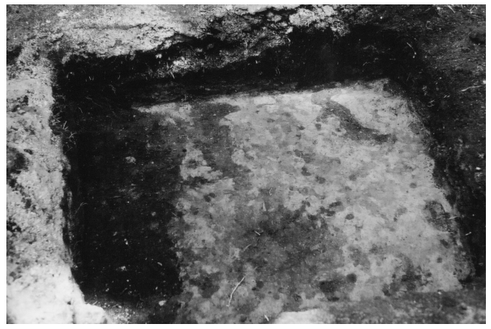



図 3.　トレンチ平面・土層

図版 1.　1T（東から）

図版 2.　2T：遺物出土状況

図版 3.　3T（北から）



図版 4.　4T（北から）



# 8.　後牟田遺跡

| | | | |
|---|---|---|---|
| 所 在 地 | 上長飯町 2663 ほか | 調査面積 | 18㎡ |
| 調査原因 | 社会福祉施設 | 担 当 者 | 近沢恒典 |
| 調査期間 | 2014.7.23 | 調査後の措置 | 現状保存 |

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地底の南半に展開する開析扇状地面（一万城扇状地）に立地している。その地形は「①西側の水田面」とその面より約２ｍ高い「②東側の畑地面」とに大別される。②では福祉施設建設に伴い 2002・2005 年（平成 14・17 年）に実施された確認調査によって遺跡の存在が確認されている。そのため、今回は①を中心にトレンチを配置した。

なお、②では確認調査に続き 2005・2006 年（平成 17・18 年）に発掘調査が実施され、弥生時代の竪穴住居跡・周溝状遺構、古代～中世の掘立柱建物跡・溝状遺構等が出土している[1)]。

**調査の結果**　トレンチ５箇所を設定し、重機にて表土を除去した後、人力で掘り下げを行い、地下の状況を観察した。

1・2T では表土直下が洪水堆積層と考えられる砂礫層・砂層（7 ～ 11 層）となる。

3 ～ 5T では表土直下の一部に桜島文明軽石層（3 層）が確認された。その下は黒色粘土質シルト（4 層）、明灰色粘土質シルト（5 層）、砂層・砂礫層（6・8 層）と続く。シルト層（4・5 層）は層位・様相より中世以前の水田層の可能性が考えられた。また、砂層・砂礫層（6・8 層）は 1・2T の同層と対応しているため、1・2T ではシルト層は削平を受けていると把握された。

以上の結果より、開発予定地の①では一部に中世水田層と考えられる層が確認されるものの、削平が進んでおり、良好な状態の遺跡が残存している可能性は低いと判断された。

1）都城市教育委員会．2007.「後牟田遺跡」

図 1.　調査区位置

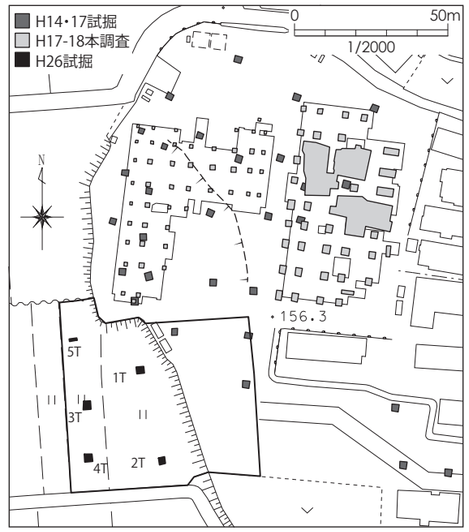
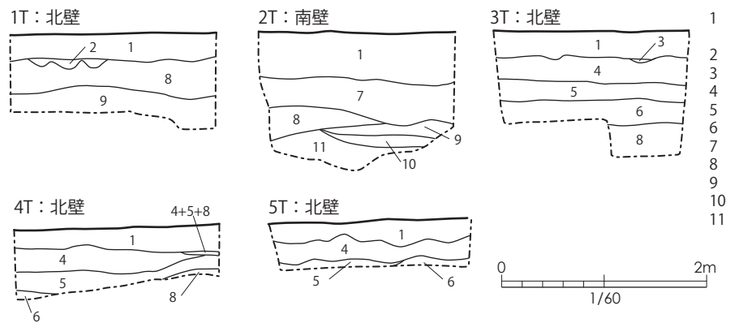



図 2.　トレンチ配置




1　黒灰色シルト(5mm以下の黄色軽石ごく少量，現耕作土)
2　灰褐色シルト(近世～近現代の耕作土?)
3　白色軽石(桜島文明軽石)
4　黒色粘土質シルト(1cm以下の黄色軽石少量)
5　明灰色粘土質シルト
6　灰色砂(5cm以下の礫やや多)
7　赤褐色砂・礫
8　灰色砂
9　砂+5cm程度の礫
10　黒色シルト+10cm以下の礫
11　砂+10cm以下の礫

図 3.　トレンチ土層

# 9. 平原第２遺跡

| | | | |
|---|---|---|---|
| 所 在 地 | 蓑原町 8522、8523 | 調査面積 | 56㎡ |
| 調査原因 | 店舗 | 担 当 者 | 山下大輔 |
| 調査期間 | 2014.10.8-9/27-28 | 調査後の措置 | 現状保存 |

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地西部、横市川と大淀川に囲まれた成層シラス台地面（蓑原台地）に立地している。現況は平坦な畑地であり、開発予定地の西側のみが周知の埋蔵文化財包蔵地「平原第２遺跡」の範囲となっている。

**調査の結果**　確認調査・再確認調査ともに、重機を使用して表土・旧耕作土（1a・b 層）を除去した後、人力にて掘り下げを行い、地下の状況を確認した。いずれも霧島御池軽石漸移層（5 層）上面にて遺構確認を行い、2T では鬼界アカホヤ火山灰層（8 層）上面でも遺構確認を実施した。

**確認調査**　１Ｔ・３Ｔでは土坑、４Ｔでは浅い土坑・ピットが検出された。これらの遺構の埋土となる黒褐色土は桜島文明軽石（2 層）の直下にあたる黒褐色土（3 層）が主体と考えられるため、中世期の可能性が考えられた。また、2T では鬼界アカホヤ火山灰層（8 層）上面まで掘り下げたが、遺構・遺物の出土は確認されていない。

**再確認調査**　8T を除く全てのトレンチにて土坑・ピットが確認された。土坑は SC6・17・22 等のように底面の一部分が深くなり、浅いテラス状の段を有する等、いわゆるハイヒール状土坑と呼ばれる形態を呈する例が多い。遺物の出土がない点も含め、山芋等の根茎類を掘り出した際の掘削痕の可能性が考えられた。また、平面規模が大きな例は落とし穴としての利用も考えられた。再確認調査でも遺物の出土は皆無であった。確認調査と同様に埋土の主体が３層である点、SC22 等の一部遺構の埋土最上部に桜島文明軽石（2 層）

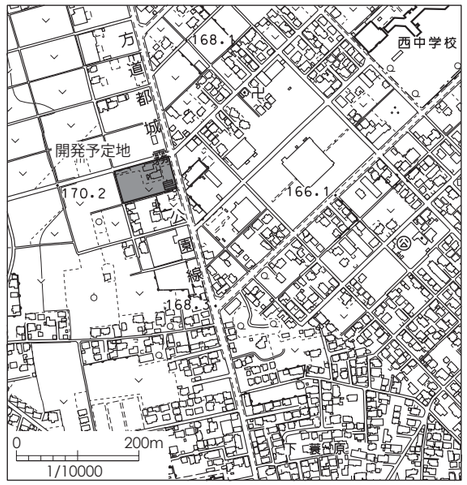



図 1.　調査区位置

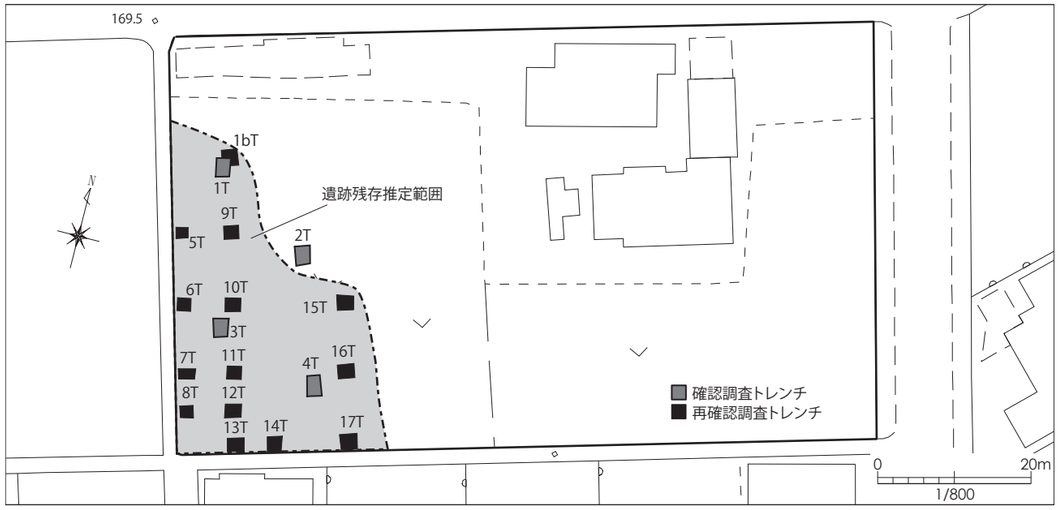



図 2.　トレンチ配置



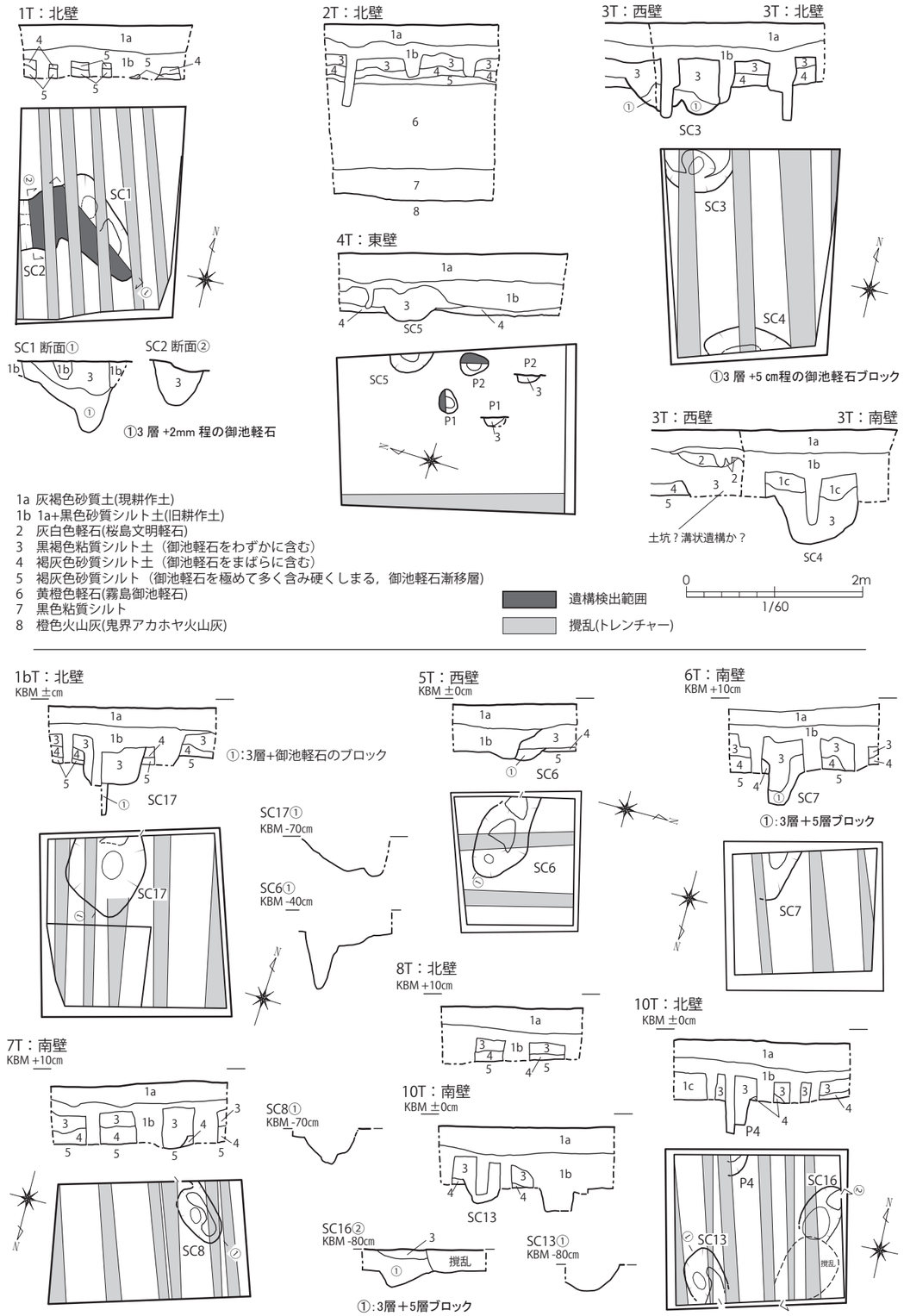



図 3.　トレンチ土層・平面 1

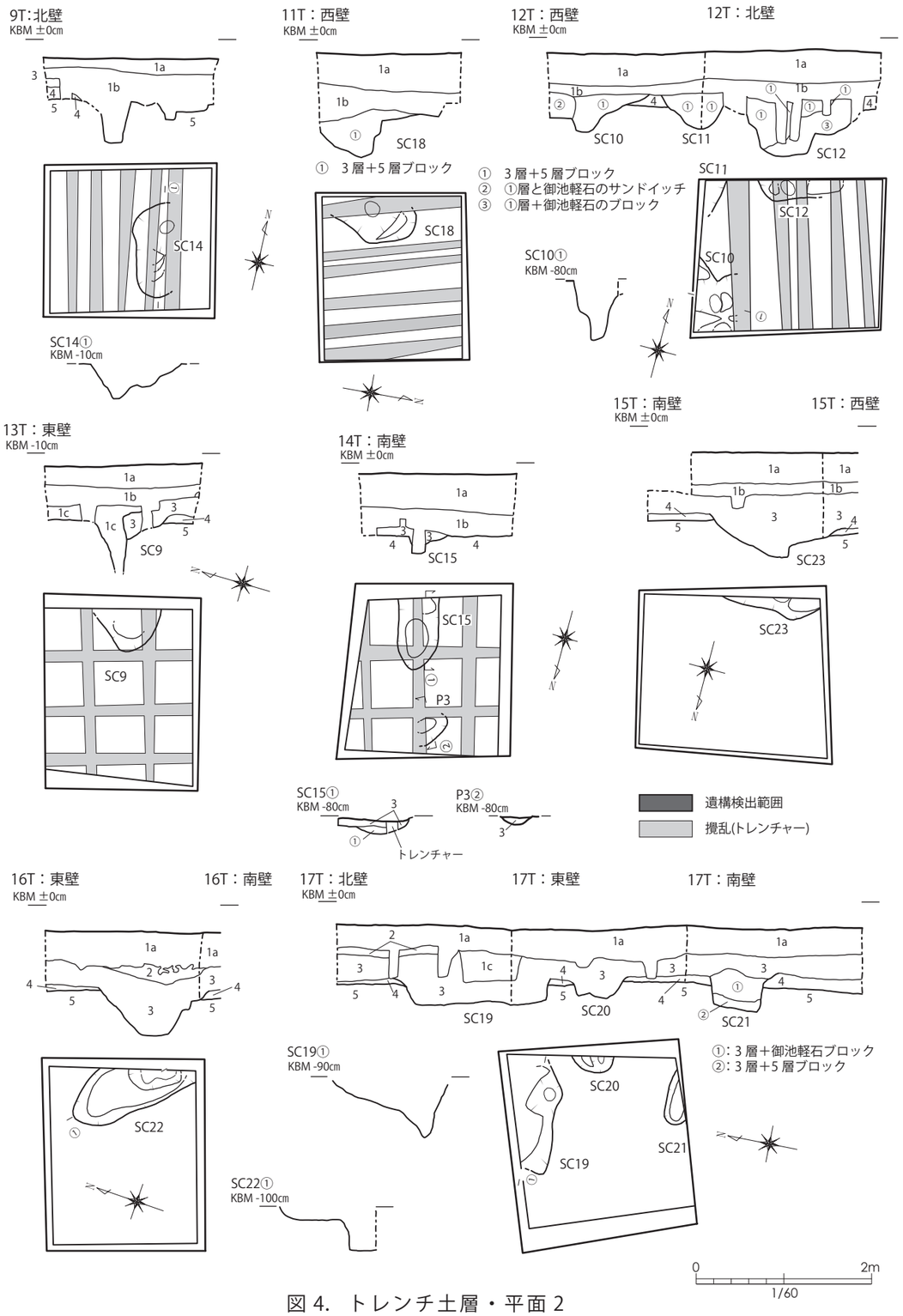



図 4. トレンチ土層・平面 2



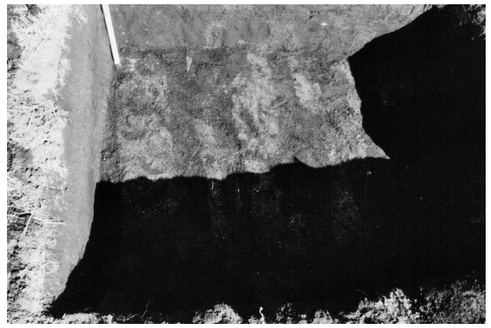
が擂鉢状に堆積している点より、再確認調査で検出された遺構も 15 世紀後半以前の中世期の所産である可能性が高いと考えられた。

これらの結果より、開発予定地には集落等の積極的な活動を示す遺跡の存在する可能性は低く、根菜類の収穫痕や落とし穴等の出土からは、集落周辺部等の比較的散漫な土地利用を主体とする遺跡が残されている状況が考えられた。

図版 1. 1T：検出状況（南から）

図版 2. 1T：SC01 土層

図版 3. 4T：SC05・P1・P2



図版 4. 10T：検出状況（南から）

図版 5. 10T：SC13 土層

図版 6. 14T：SC15・P3

# 10. 都城領主館跡

所 在 地　姫城町 22（明道小学校）　　調査面積　4㎡
調査原因　校舎大規模改造（耐震）　　担 当 者　桒畑光博
調査期間　2014.10.6　　調査後の措置　現状保存

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地南半に展開する開析扇状地面（一万城扇状地）に位置し、姫城川右岸に形成された段丘縁部に立地している。当該地は近世都城の統治機関である領主館の所在地とされるが、市街地化が進み、遺跡の状況が確認できていないことから「周知の埋蔵文化財包蔵地」外となっている。周辺では 1998 年（平成 10 年）に市役所南別館新設、美術館増築に伴い試掘調査が実施されている。両者共に撹乱が進行していたものの、近世～近代と考えられる溝状遺構と陶磁器片が出土している。

今回の事業は耐震を目的とする校舎大規模改造であり、地下への影響はなかったが、溜桝設置部分は 2 m 程度の掘削を行うとの事であったため、溜桝掘削にあわせ、地下の状況を確認した。

**調査の結果**　現表土層（1・2 層）から瓦等の混じる褐灰色砂質シルト層（6 層）までは、学校敷地造成時の形成層と捉えられた。4 期に大別される。その下の一部より、中世後半から近世の遺物包含層の可能性のある、桜島文明軽石を含む黒褐色土層（10 層）が確認された。また、10 層以下を掘り込む大きな落ち込みがみられ、全体像は不明ながら近世～近代の遺構の一部と考えられた。

これらの状況より、開発予定地には学校造成等により大きな影響を受けているものの、中世～近世にかけての遺跡が残存している可能性が高いと判断された。また、遺跡の存在が確認されたため、周辺部の試掘結果とあわせ「都城領主館跡」（中世～近世・城館跡）として新規遺跡の登録を行った。

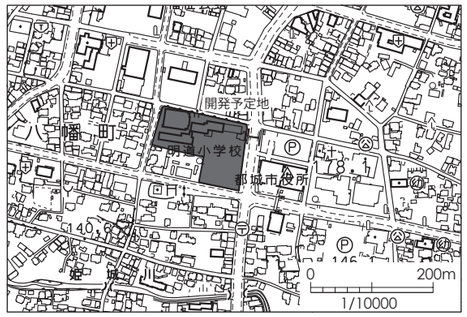


図 1. 調査区位置

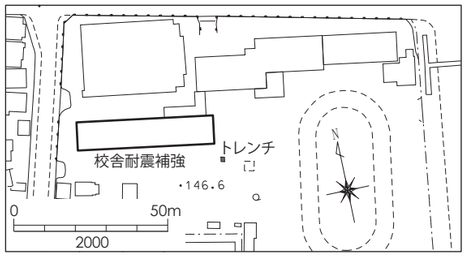
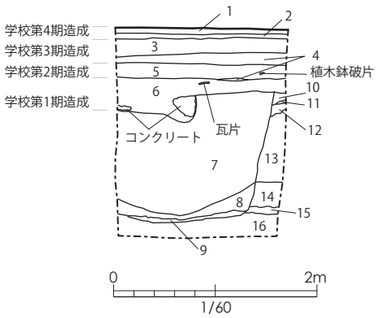


図 2. トレンチ配置

図版 1. トレンチ土層




1　褐灰色砂(表面芝張)
2　小粒の砕石
3　褐灰色砂質シルト(1cm以下の黄色軽石・白色軽石含む，瓦・砂岩礫混，硬くしまる)
4　シラス
5　褐灰色砂質シルト(1cm以下の黄色軽石含む，砂岩礫・針金・瓦混)
6　褐灰色砂質シルト(1cm以下の黄色軽石含む，砂岩礫・瓦混，下部にコンクリート)
7　黒褐色砂質シルト(2cm以下の黄色軽石含む＝7～9は近世～近代の遺構内堆積土)
8　黄色軽石と黒色土のラミナ
9　鬼界アカホヤ火山灰ブロックと黒色土ブロックの混在
10 黒褐色砂質シルト(5mm以下の灰白色軽石含む＝中世後半～近世の包含層？)
11 黒色粘質シルト
12 黒色シルト(1cm以下の黄色軽石含む)
13 2cm以下の黄色軽石(霧島御池軽石)
14 黒色粘質シルト
15 にぶい褐色シルト
16 黄橙色火山灰(鬼界アカホヤ火山灰)

図 3. トレンチ土層



# 11. 山野原第 1 遺跡

所 在 地　山之口町富吉 6160-6 ほか　　調査面積　20㎡
調査原因　畜舎・堆肥舎　　担 当 者　桒畑光博
調査期間　2014.10.23-24　　調査後の措置　協議中

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地北東部、盆地東縁に形成された小起伏山地の裾部に位置し、富吉川や樋口川によって複雑に開析された河岸段丘面（富吉扇状地）に立地している。現況はほぼ平坦な畑地である。北東方向へ約 100 m の地点は、江戸後期の黄檗宗寺院「瑞應寺」の伝承地となっている。

**調査の結果**　トレンチ 5 箇所を設定し、重機にて表土を除去した後、人力で掘り下げを行い、地下の状況を確認した。いずれのトレンチでも、霧島御池軽石漸移層（5 層）もしくは霧島御池軽石層（6 層）において遺構検出を実施した。4T においては鬼界アカホヤ火山灰層（9 層）まで掘り下げを行った。

1 ～ 3T では表土直下が上位を削平された霧島御池軽石漸移層（5 層）となる。4T では霧島御池軽石層（6 層）まで削平が進む。1・2T では古代～中世と考えられるピット、3T では土坑、4T では硬化面が確認された。5T では遺物包含層となる黒色土層（4 層）が残存しており、多量の古墳時代の土器が出土した。1 ～ 4 は古墳時代前期土師器と考えられる。1・2 は甕口縁部

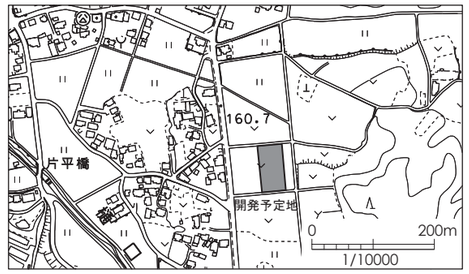
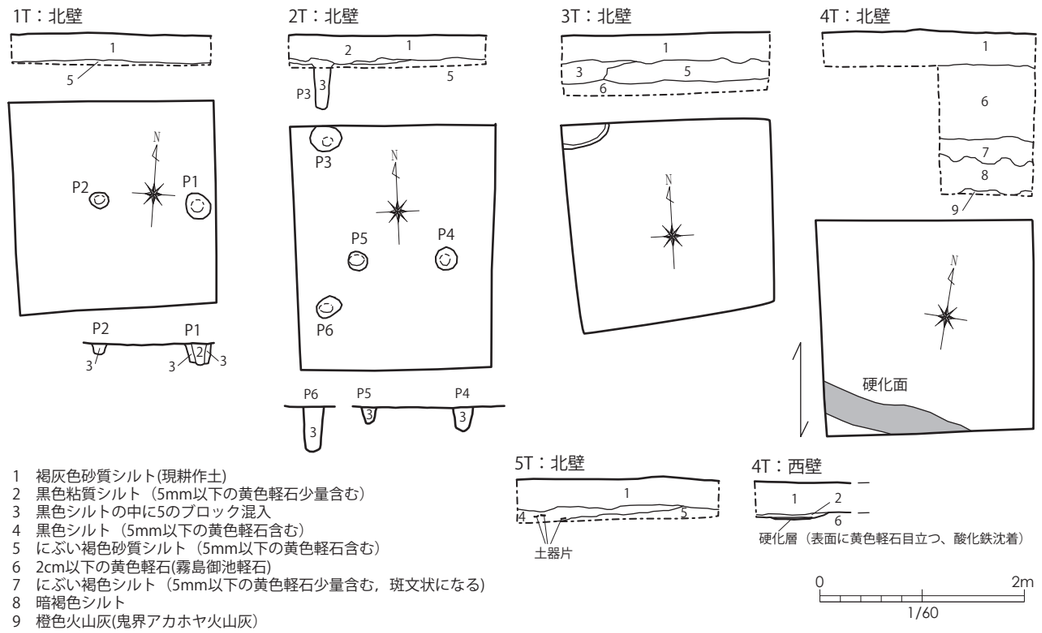


図 1. 調査区位置

図 2. トレンチ配置




1　褐灰色砂質シルト(現耕作土)
2　黒色粘質シルト（5mm以下の黄色軽石少量含む）
3　黒色シルトの中に5のブロック混入
4　黒色シルト（5mm以下の黄色軽石含む）
5　にぶい褐色砂質シルト（5mm以下の黄色軽石含む）
6　2cm以下の黄色軽石(霧島御池軽石)
7　にぶい褐色シルト（5mm以下の黄色軽石少量含む，斑文状になる）
8　暗褐色シルト
9　橙色火山灰(鬼界アカホヤ火山灰)

図 3. トレンチ土層

である。1･2 共に頸部がやや屈曲し、口縁部がやや外反しながら立ち上がる。1 は内外面にミガキを施す。3 は甕底部。4 は高坏脚部である。脚柱部がわずかに膨らみ、脚裾部はラッパ状に開く。外面はミガキである。

以上の結果より、開発予定地には古墳時代から中世にかけての良好な遺跡が存在する可能性が高いと判断された。

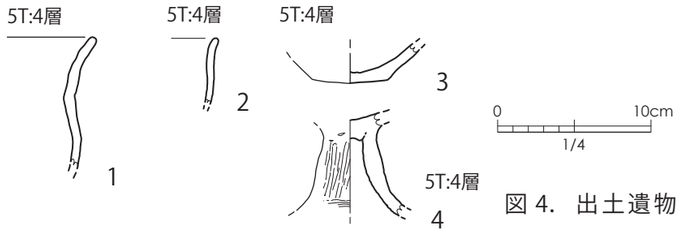
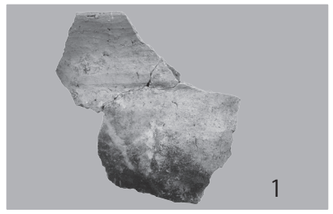


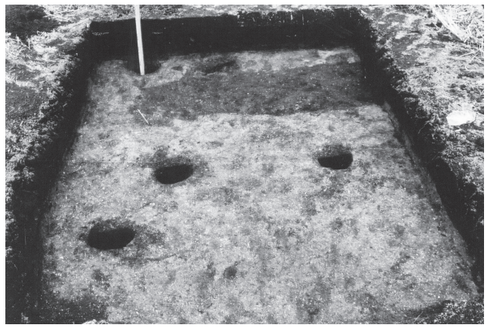

図 4.　出土遺物




図版 1.　出土遺物

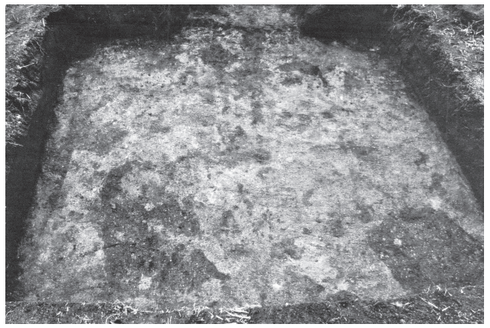
図版 2.　全景

図版 3.　1T（南から）



図版 4.　2T（南から）

図版 5.　3T（南から）



図版 6.　4T（北から）

図版 7.　5T（南から）



# 12.　東原遺跡

| | | | |
|---|---|---|---|
| 所 在 地 | 山田町中霧島 3356-1 ほか | 調査面積 | 50㎡ |
| 調査原因 | 店舗・事務所・作業場等 | 担 当 者 | 近沢恒典・原栄子 |
| 調査期間 | 2014.10.30-31 | 調査後の措置 | 現状保存 |

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地北部、大淀川の支流である丸谷川と庄内川に挟まれた成層シラス台地面（谷頭台地）に立地している。現況は平坦な畑地である。隣接する温泉施設建設にあたっては、台地縁辺部にて遺跡が確認され、1997 年（平成 9 年）に発掘調査が実施されている。報告書は未刊行となっている。土坑・ピット等のほか、多量の弥生土器が出土している。

**調査の結果**　開発予定地全体に均等となるように 1 ～ 10T を設定し、遺物の出土が多かった 10T の西側に 11T を追加した。重機にて表土を除去した後、人力で掘り下げを行い、地下の状況を確認した。いずれのトレンチも霧島御池軽石漸移層（7 層）上面と霧島御池軽石層（8 層）上面もしくはどちらか片面にて遺構検出を行った。

全体的な様相としては、牛蒡深耕（トレンチャー）による撹乱が進行する。ほ場整備の影響からか、霧島新燃享保軽石（2 層）、暗灰褐色土層（3 層）は削平が進み、一部でしか確認できていない。

北側の畑に設定した 1・2・8・9T では、9T の遺物出土量がやや多いものの、他のトレンチからの遺物出土量はわずかであった。遺物量のやや多い 9T であるが、トレンチャーの影響が大きく、ほとんどが撹乱土中の出土であり、原位置を留めているとはいえない。

南側の畑に設定した 10・11T では多量の遺物が出土した。11T にて層ごとの遺物位置記録をトータルステーションで行った結果、5 層 37 点、6 層 2 点と、5 層が遺物包含層の主体と捉えられた。遺物の中心は弥生土器である（1 ～ 4）。また、11T では 5 層上面・6 層上面にても遺構検出を行ったが遺構は確認されなかった。

10・11T の周囲の 3・4・7T では遺物の出土が少量にとどまる。そのため、包含層の平面的な広がりとしては、10・11T 付近を中心とする範囲が考えられた。また、7・

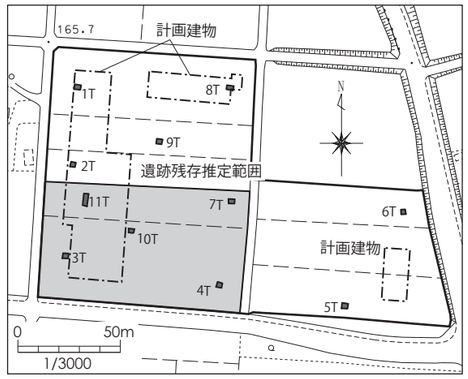



図 2.　トレンチ配置

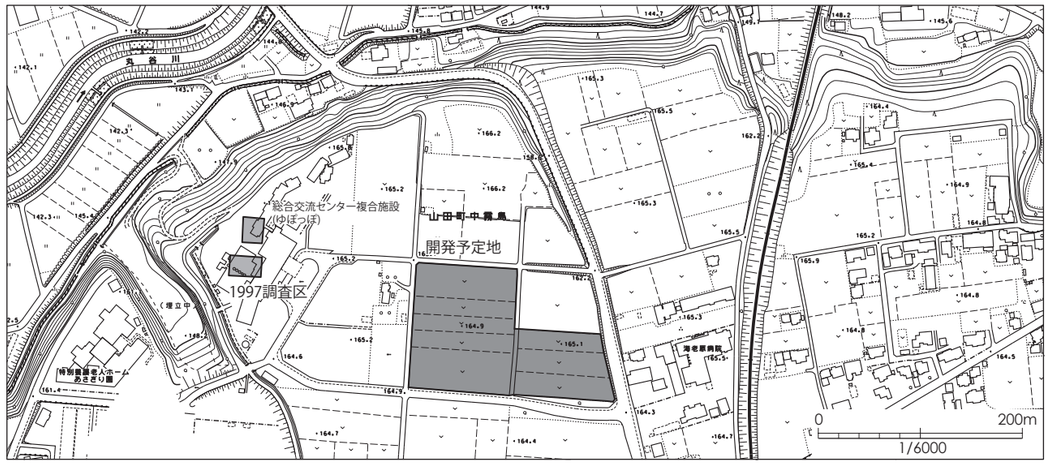
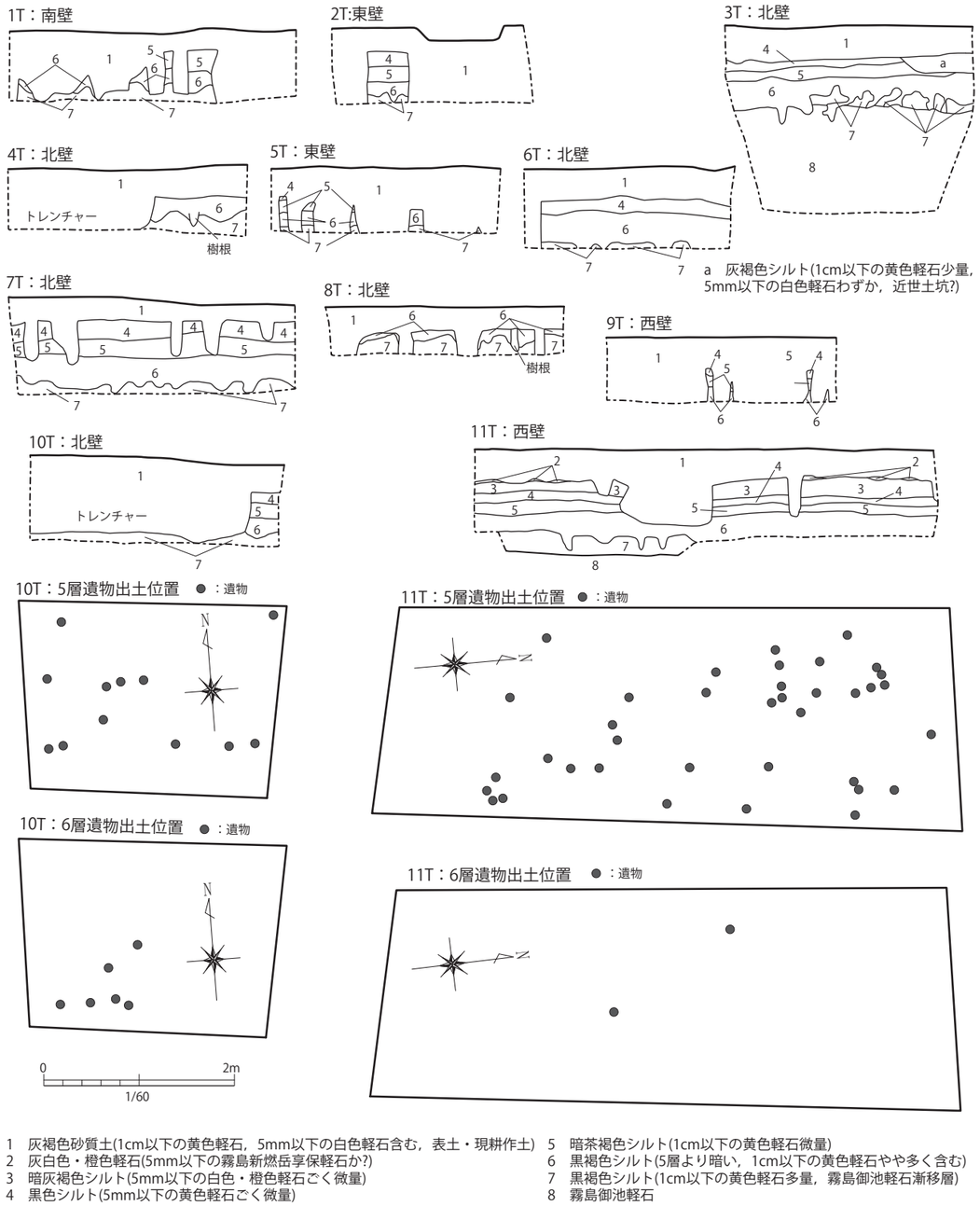



図 2.　調査区位置




1　灰褐色砂質土(1cm以下の黄色軽石，5mm以下の白色軽石含む，表土・現耕作土)
2　灰白色・橙色軽石(5mm以下の霧島新燃岳享保軽石か?)
3　暗灰褐色シルト(5mm以下の白色・橙色軽石ごく微量)
4　黒色シルト(5mm以下の黄色軽石ごく微量)
5　暗茶褐色シルト(1cm以下の黄色軽石微量)
6　黒褐色シルト(5層より暗い，1cm以下の黄色軽石やや多く含む)
7　黒褐色シルト(1cm以下の黄色軽石多量，霧島御池軽石漸移層)
8　霧島御池軽石

図 3.　トレンチ土層・平面

11T の位置する畑はトレンチャーがほとんどなく、良好な状態で遺跡が残存している可能性が高い。東側の畑に設定した 5・6T では遺物の出土は確認されなかった。全トレンチから遺構の出土は確認されなかった。

これらの結果より、10・11T 付近を中心として 3・4・7T 付近までの広がりをもつ、弥生時代の遺物包含層を主体とする遺跡が存在する可能性が高いと判断された。



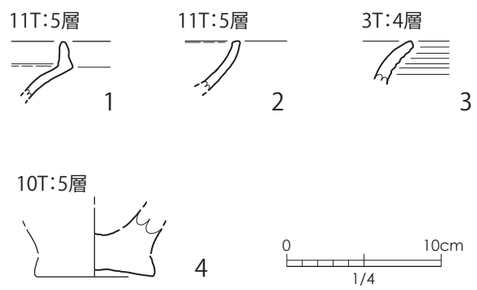
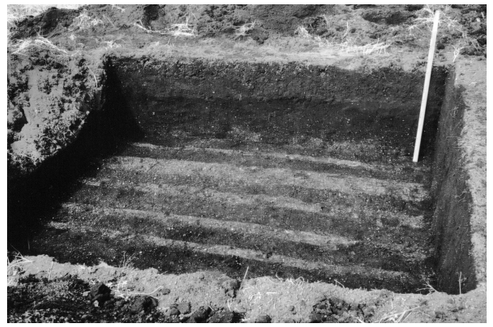
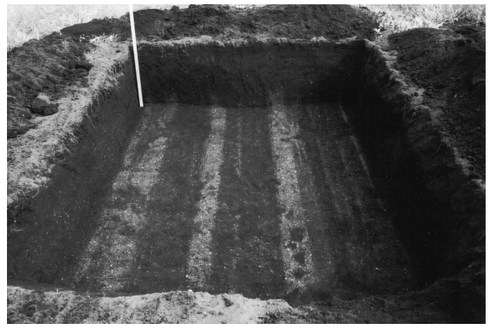



図 4.　出土遺物

図版 1.　調査後全景（西から）



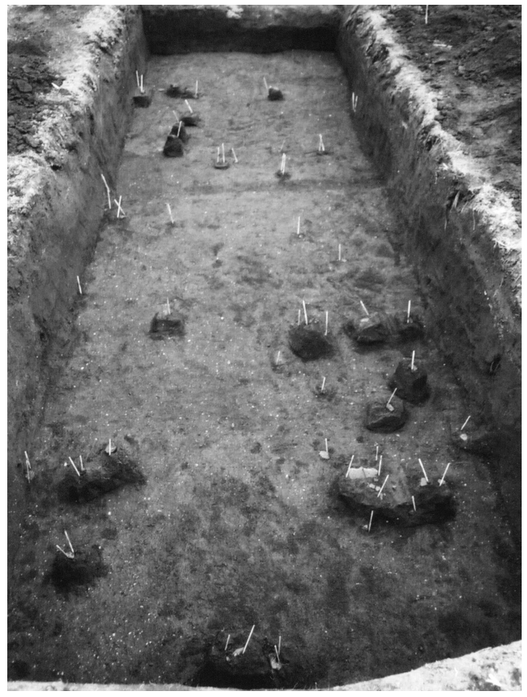
図版 2.　3T（南から）



図版 3　6T（南から）

図版 4.　10T：5 層遺物出土状況（東から）

図版 5.　10T：遺物出土状況



図版 6.　11T：5 層遺物出土状況（北から）

# 13. 梅北北原遺跡②

所 在 地　梅北町 1870　　調査面積　8㎡
調査原因　土層改良（天地返し）　　担 当 者　近沢恒典
調査期間　2014.12.3　　調査後の措置　事業着手予定

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地南部、梅北川右岸に展開するシラス台地・成層シラス台地群（梅北台地）に立地する。現況は畑地であり、北を梅北川の支流である野間川が西流している。

**調査の結果**　トレンチ２箇所を設定し、重機にて表土を除去した後、人力で掘り下げを行い、地下の状況を観察した。1･2T 共に一部に鬼界アカホヤ火山灰層（2 層）以下が残存するものの、その大部分は現地表面下 1.7 ～ 1.9m まで大規模な撹乱をうけていた。撹乱土（1 層）の様相より天地返しが行われた後の状態と捉えられた。遺構・遺物の出土は確認されなかった。

2T では桜島薩摩テフラが混じる褐色土層（6 層）上面にてシラスで充填された地割れ、西・北壁にて垂直方向にのびるシラスの砂脈が観察された。地震等による液状化現象の痕跡と捉えられる。シラスの砂脈には粘土質・砂質の部分があり、梅北北原遺跡確認調査①でみられた灰褐色粘土質シルト（16 層）、白色砂質土（17 層）が起源と考えられた。また、同様の液状化痕跡は 2012 年（平成 24 年）確認調査地点でも観察されており、野間川に沿った低位段丘面を中心に広がる可能性がある。

これらの結果より、開発予定地には自然災害の痕跡は観察されたものの、良好な遺跡が存在している可能性は低いと判断された。

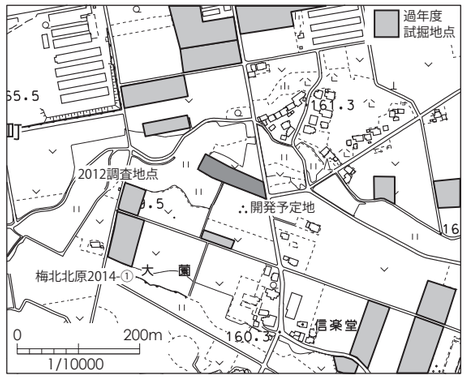


図 1.　調査区位置

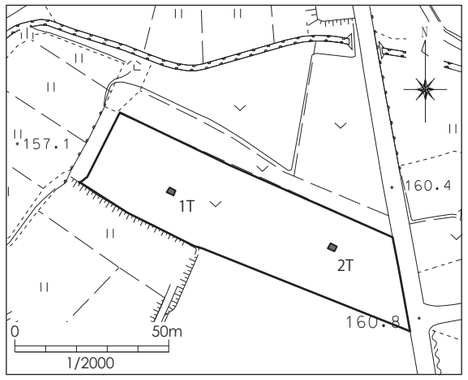
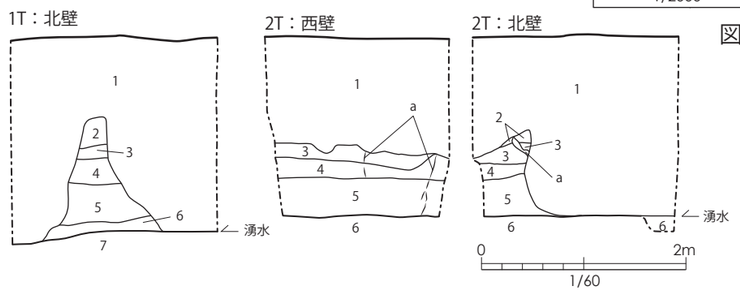


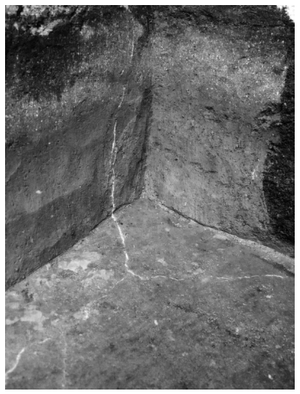
図 2.　トレンチ配置




1　黒褐色土(黒色土ブロック・御池軽石ブロック・鬼界アカホヤ火山灰ブロック等混)
2　鬼界アカホヤ火山灰
3　黒灰色シルト(1cm以下の黄色軽石ごく微量)
4　黒褐色～暗褐色シルト(1cm以下の橙色・白色軽石少量，桜島11火山灰)
5　暗褐色～褐色シルト(1cm以下の橙色軽石ごく微量)
6a 褐色シルト(1cm以下の橙色軽石，黒色・白色ブロック混，桜島サツマ火山灰?)
6b 褐色シルト(5cm程度の白色ブロックやや多，桜島サツマ火山灰)
a　白色砂質土(シラス，上位はシルト，下位は砂質，梅北北原遺跡①の16・17層の混層，液状化痕跡)

※　梅北北原遺跡確認調査①
16 灰白色粘土質シルト
17 白色砂質土(シラス，軽石，5cm以下の小礫混，ラミナ状堆積)

図 3.　トレンチ土層


図版 1.　2T：土層



# 14. 下川東四丁目（川東墓地隣接地）

所 在 地　下川東四丁目 3117 ほか　　調査面積　20㎡
調査原因　駐車場整備　　担 当 者　近沢恒典
調査期間　2014.12.17-18　　調査後の措置　事業着手予定

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地底のほぼ中央、沖水川右岸の河川氾濫原面に立地している。北に隣接する開析扇状地面（一万城扇状地）では、川東墓地建設に伴い下川東牧ノ原地下式横穴墓群が発見・調査されている。やや東の河川氾濫原面にある中尾下遺跡[1]では古代掘立柱建物跡や近世水田跡が確認されている。開発予定地は「周知の埋蔵文化財包蔵地」外だが、下川東牧ノ原地下式横穴墓群に隣接し、中尾下遺跡とも近い点から、試掘調査を実施する事となった。

**調査の結果**　トレンチ５箇所を設定し、重機にて表土を除去した後、人力にて掘り下げを行い、地下の状況を確認した。基本的な層序は現代水田層（1 層）と旧水田層・造成等層（3・4 層）、砂層・砂礫層（2・5 層）に大別された。

1・3・5T では上記の順の堆積がみられたが、2・4T では旧水田層（3 層）は検出されなかった。いずれのトレンチでも遺構・遺物の出土は確認されなかった。

文化･文政年間の編纂資料「庄内地理誌」（巻 72）[2]の絵図では、扇状地縁に沿った河川流路がみられる。そのため、旧水田層（3 層）は近代以降の形成と考えられた。

これらの結果より、開発予定地に良好な遺跡が存在する可能性は低いと判断された。

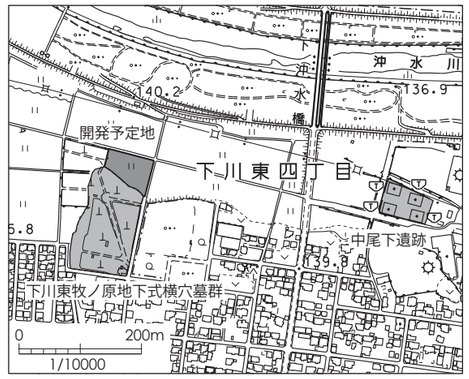


図 1.　調査区位置

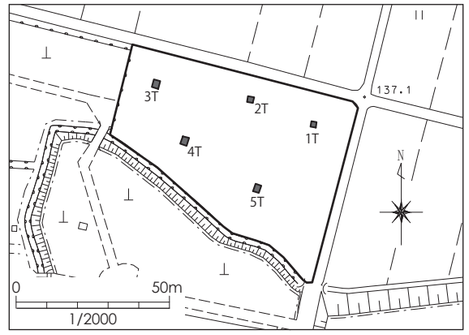
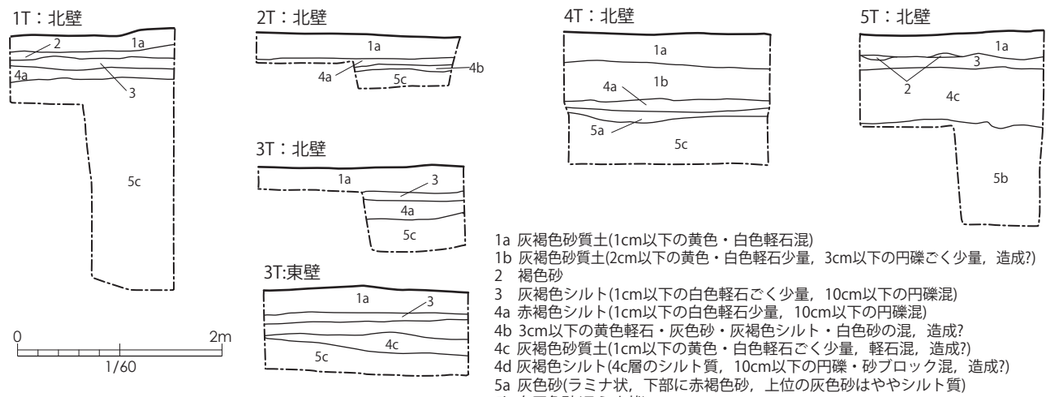


図 2.　トレンチ配置

1）都城市教育委員会．2010.「中尾下遺跡」
2）都城市．2003.「都城市史　資料編　近世３」




1a 灰褐色砂質土(1cm以下の黄色・白色軽石混)
1b 灰褐色砂質土(2cm以下の黄色・白色軽石少量，3cm以下の円礫ごく少量，造成?)
2　褐色砂
3　灰褐色シルト(1cm以下の白色軽石ごく少量，10cm以下の円礫混)
4a 赤褐色シルト(1cm以下の白色軽石少量，10cm以下の円礫混)
4b 3cm以下の黄色軽石・灰色砂・灰褐色シルト・白色砂の混，造成?
4c 灰褐色砂質土(1cm以下の黄色・白色軽石ごく少量，軽石混，造成?)
4d 灰褐色シルト(4c層のシルト質，10cm以下の円礫・砂ブロック混，造成?)
5a 灰色砂(ラミナ状，下部に赤褐色砂，上位の灰色砂はややシルト質)
5b 白灰色砂(ラミナ状)
5c 砂礫層

図 3.　トレンチ土層

# 15. 市指定史跡小山城跡

所 在 地　高城町桜木 1403-1（南方神社）　調査面積　2㎡
調査原因　説明版設置　担 当 者　近沢恒典
調査期間　2015.1.6　調査後の措置　現状保存

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地北部、東岳川と花木川に挟まれた開析扇状地面（山之口扇状地）の西端部に立地している。2012 年（平成 24 年）に市指定史跡となっている。現況は南方神社境内となっている。調査の起因は当神社に伝わる民俗芸能「桜木あげ馬」の説明版設置である。設置予定地は参道脇にあり、境内地表面より 1 m程度高い盛土部である。

**試掘結果**　説明版設置予定地にトレンチを設定し、人力で掘り下げを行い、地下の状況を確認した。表土直下には厚さ 70㎝程度のシラス主体の造成土（2 層・アスファルト等混）があり、旧表土面と考えられる暗灰褐色土層（3 層）、近現代陶磁器片が出土した暗灰褐色土層（4 層）、桜島文明軽石（5 層）と続く。

霧島御池軽石（8a 層）上面にて、北西 - 南東方向にのびる溝状遺構と考えられる落ち込みが確認された。土層の観察からは黒褐色土層（7 層）上面から掘り込まれていることがわかる。掘り込み面からの深さは約 40㎝、遺構埋土の最上面には白色粘土（ア層）が見られた。遺物は出土していないものの、桜島文明軽石（5 層）より下に位置しているため、15 世紀後半以前の遺構と考えられた。

これらの状況より、開発予定地には 15 世紀後半以前の所産と考えられる遺跡が良好な状態で残存していると判断された。

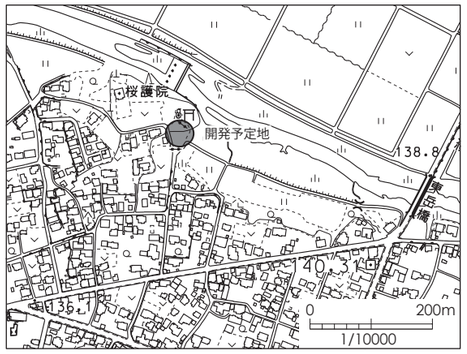


図 1.　調査区位置

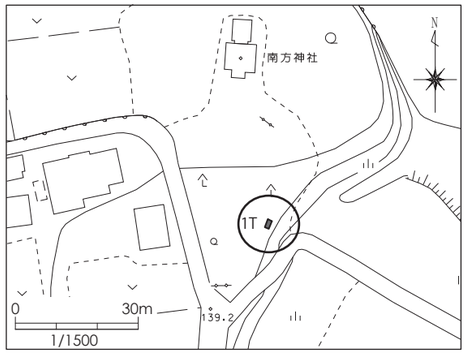


図 2.　トレンチ配置

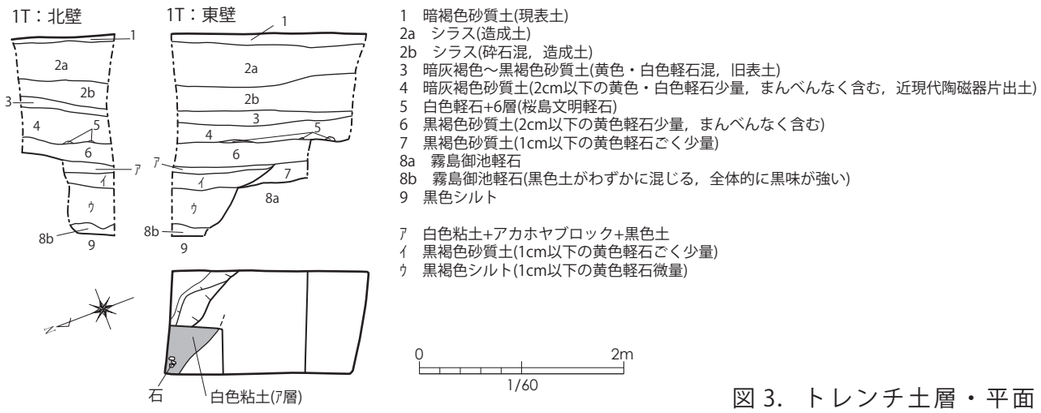


図 3.　トレンチ土層・平面



# 16. 笹ヶ崎遺跡③

所 在 地　梅北町 1091-5 ほか　調査面積　12㎡
調査原因　太陽光発電施設　担 当 者　栗山葉子
調査期間　2015.1.16　調査後の措置　現状保存

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地南部、梅北川沿いに展開するシラス台地・成層シラス台地群内（梅北台地）にあり、成層シラス台地端部に立地している。東側に隣接して志布志高規格道路建設予定地があり、宮崎県埋蔵文化財センターにより 2014 年（平成 26 年）に発掘調査が実施されている。現況は杉林であり、南→北～東へ向かい緩やかに下る斜面となっている。

**調査の結果**　開発予定地では杉の伐採はなされていたものの、随所に根が残っていたため、根の無い部分を中心に 3 箇所のトレンチを設定した。人力で掘り下げを行い、地下の状況を確認した。いずれも霧島御池軽石層（8 層）上面にて遺構確認を行っている。

1T では浅い溝状遺構内に形成された硬化面が確認された。溝状遺構・硬化面ともに北西―南東方向にのびると考えられる。中世土師器小皿片が出土している（1）。また、1T では桜島薩摩テフラを含む層（13 層）まで掘り下げを行ったが、下位層からの遺構・遺物の出土は確認されなかった。

2・3T は県調査区で確認された溝状遺構の延長線上に設定した。2T では現代の撹乱が検出されたのみであった。3T ではトレンチ南端にて、溝状遺構の端部と考えられる落ち込みが検出された。桜島文明軽石を主体とする埋土（⑤層）は、県調査区の溝状遺構と共通しており、同溝の延長と考えられる。また、3T では備前焼擂鉢片（2）も出土している。

これらの結果より、開発予定地には台地内部から広がる遺跡が残存していると判断された。

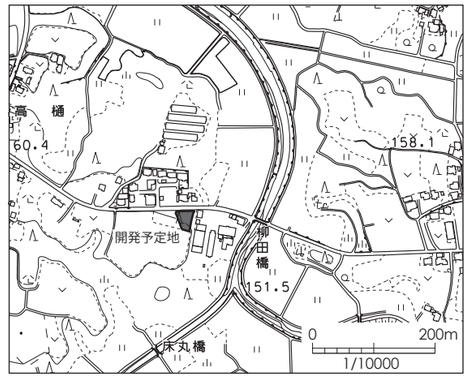


図 1.　調査区位置

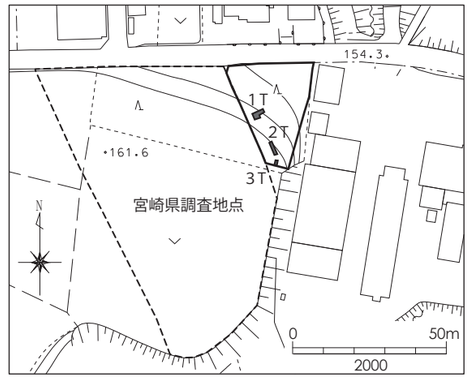


図 2.　トレンチ配置

図版 1.　全景：調査前（西から）

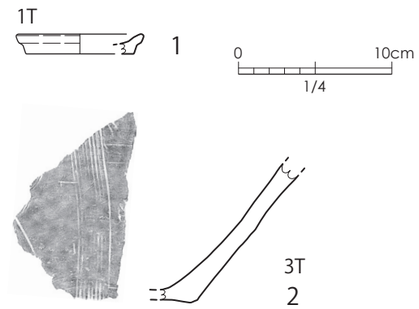
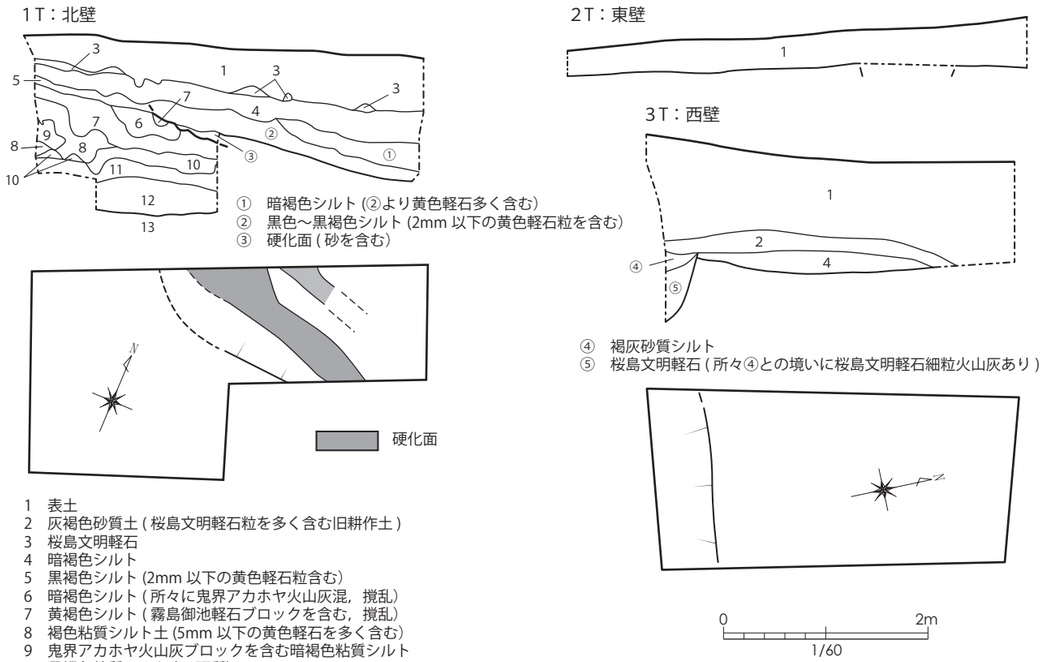


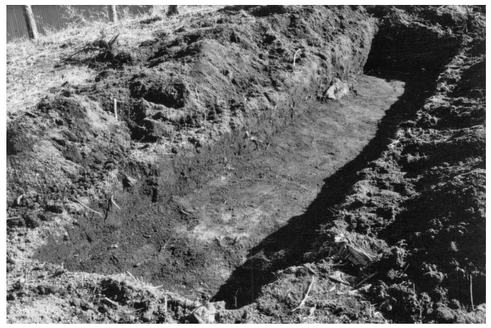
図 3.　出土遺物




1 表土
2 灰褐色砂質土 ( 桜島文明軽石粒を多く含む旧耕作土 )
3 桜島文明軽石
4 暗褐色シルト
5 黒褐色シルト (2mm 以下の黄色軽石粒含む)
6 暗褐色シルト ( 所々に鬼界アカホヤ火山灰混，撹乱)
7 黄褐色シルト ( 霧島御池軽石ブロックを含む，撹乱)
8 褐色粘質シルト土 (5mm 以下の黄色軽石を多く含む)
9 鬼界アカホヤ火山灰ブロックを含む暗褐色粘質シルト
10 黒褐色粘質シルト土 ( 硬質)
11 黒色～暗褐色粘質シルト ( 桜島 11 テフラ濃集層)
12 暗褐色粘質シルト (5mm 以下の黄色軽石を含む)
13 桜島薩摩テフラを含む灰褐色シルト

図 3. トレンチ土層・平面

図版 2. 1T（南から）



図版 3. 2T（西から）

図版 4. 3T：遺物出土状況

図版 5. 3T：溝状遺構



# 17. 下原遺跡①

| | | | |
|---|---|---|---|
| 所 在 地 | 高崎町東霧島 1460-1 ほか | 調査面積 | 9㎡ |
| 調査原因 | 土砂採取 | 担 当 者 | 近沢恒典 |
| 調査期間 | 2015.2.4 | 調査後の措置 | 協議中 |

**位置と環境** 開発予定地は都城盆地北西部、高崎川右岸に展開するシラス台地・成層シラス台地群（前田－東霧島台地群)に立地している。現況は畑地である。開発事業の内容は霧島御池軽石（ボラ）採取であり、開発予定地の半分程度は採取準備のために霧島御池軽石層上面まで削平を受けていた。また、未削平の部分には削平で生じた廃土山が築かれており、トレンチ設定が可能な場所は非常に限られた範囲となっていた。

**調査の結果** 調査可能な場所 3 箇所にトレンチを設定した。重機にて表土を除去した後、人力で掘り下げ、地下の状況を確認した。

1T では暗褐色土層（6 層）下位にてピット 1 基が検出された。埋土は黄褐色土（5 層）を主体とする。遺構内・包含層共に遺物は出土していない。2T では 5 層中より縄文土器 2 点と石器 1 点が出土した。遺構は確認されていない。1 は縄文時代晩期土器の鉢底部と考えられる。2 は粗製剥片石器で石材は輝石安山岩である。1・2 は 2T の同一地点より、上から 1・2 の順で重なるように出土している。また、廃土山及び削平部の土層断面より多数の古代土器片・石器が採集された。3 は石製土堀具の刃部付近と考えられる。石材は輝石安山岩である。

以上の結果より、開発予定地には既に削平されている部分を除き、古代及び縄文時代の良好な遺跡が存在している可能性が高いと判断された。

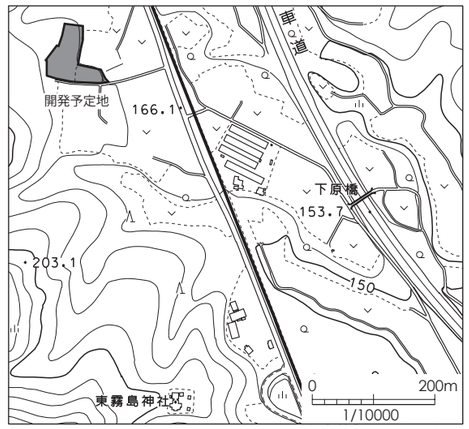



図 1. 調査区位置

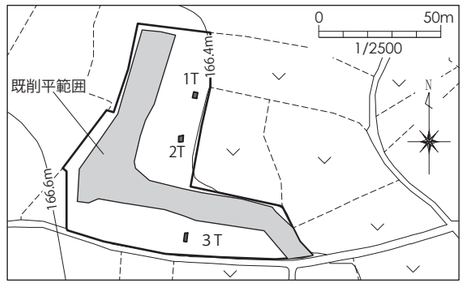
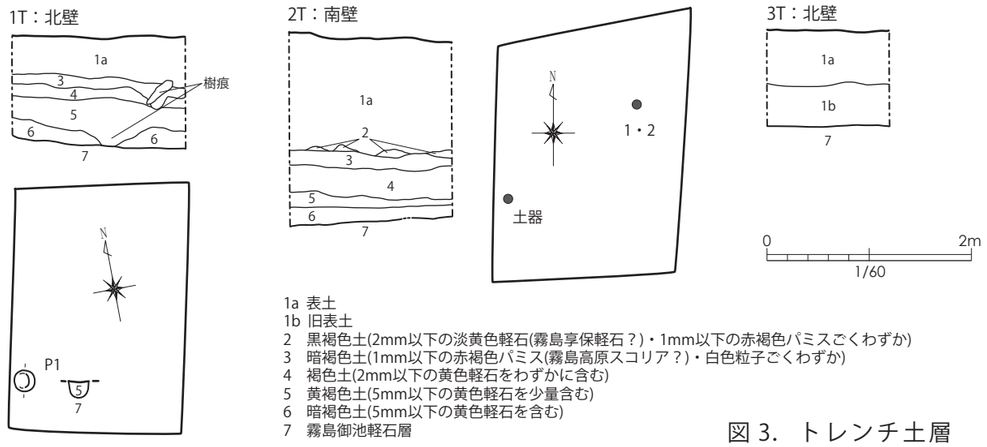



図 2. トレンチ配置




1a 表土
1b 旧表土
2 黒褐色土(2mm以下の淡黄色軽石(霧島享保軽石？)・1mm以下の赤褐色パミスごくわずか)
3 暗褐色土(1mm以下の赤褐色パミス(霧島高原スコリア？)・白色粒子ごくわずか)
4 褐色土(2mm以下の黄色軽石をわずかに含む)
5 黄褐色土(5mm以下の黄色軽石を少量含む)
6 暗褐色土(5mm以下の黄色軽石を含む)
7 霧島御池軽石層

図 3. トレンチ土層

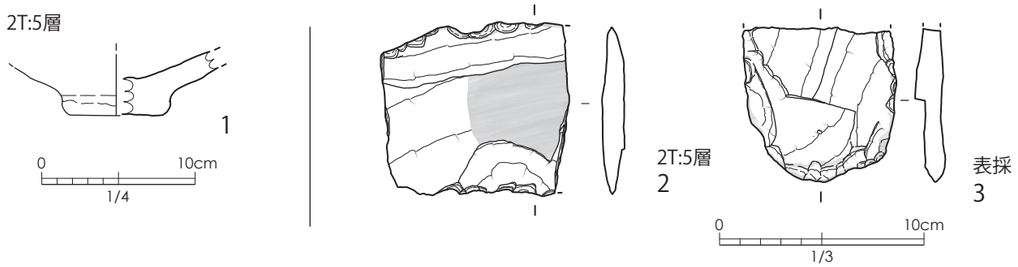
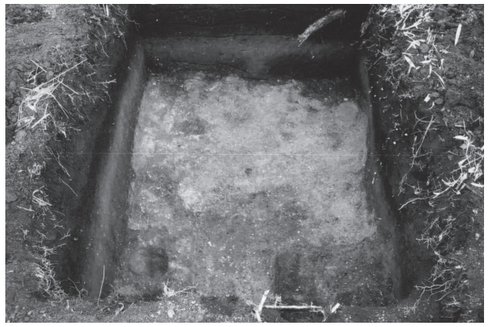
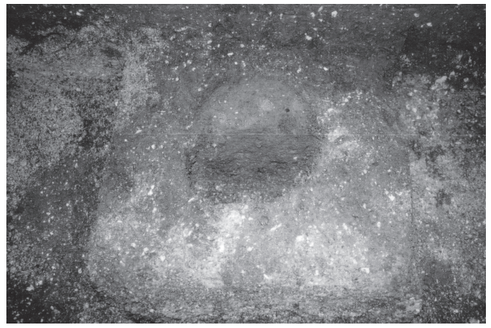



図 4.　出土遺物



図版 1.　1T（南から）



図版 2.　1T・P1

図版 3.　2T（北から）

図版 4.　2T：遺物出土状況

図版 5.　2T：南壁土層

図版 6.　削平状況



# 18.　上の段遺跡

| | | | |
|---|---|---|---|
| 所 在 地 | 高崎町東霧島 772-6 ほか | 調査面積 | 18㎡ |
| 調査原因 | 土砂採取 | 担 当 者 | 近沢恒典 |
| 調査期間 | 2015.2.5 | 調査後の措置 | 協議中 |

**位置と環境**　開発予定地は都城盆地北西部、高崎川右岸に展開する丘陵地（東霧島丘陵）の端部に立地している。現況は南から北の台地端部へ向い緩やかに下る畑地である。

**調査の結果**　トレンチ 4 箇所を設定し、重機にて表土を除去した後、人力にて掘り下げ、地下の状況を確認した。いずれのトレンチでも霧島御池軽石層（5 層）上面にて遺構検出を実施した。2T では遺構・遺物が確認されたため、トレンチの拡張を行った。

1T・3T・4T では遺構・遺物は出土していない。

2T では黒褐色土層（4 層）上面にて霧島御池軽石ブロックが混じる黒褐色土層（a 層）が確認されたため、遺構検出を行ったが、その段階では明確な遺構を検出することはできなかった。その後、大型の土器片が出土したため、土器片出土位置を中心にトレンチ拡張を行った結果、霧島御池軽石層（5 層）上面にて、a 層を埋土とする浅い落ち込みが確認された。埋土中に大型の土器片が含まれる点、霧島御池軽石のブロックが一定レベルにて観察される点より、竪穴住居跡の可能性が考えられた。出土した土器片は同一個体とみられる古墳時代の土師器甕である。1 は口縁部で頸部に刻目突帯をもち口縁部は緩く外反する。

これらの結果より、開発予定地には古墳時代の集落を主体とする良好な遺跡が存在している可能性が高いと判断された。

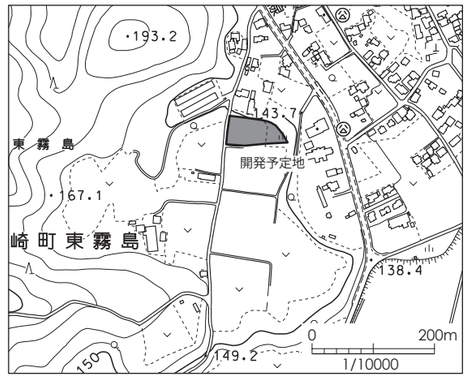



図 1.　調査区位置

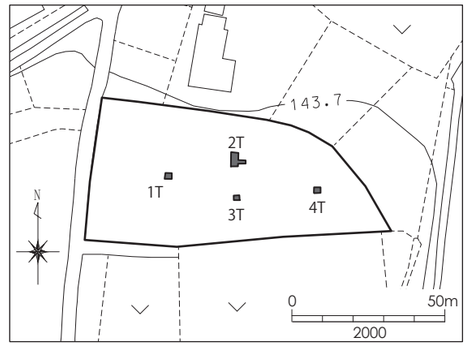



図 2.　トレンチ配置

図版 1.　1T（南から）

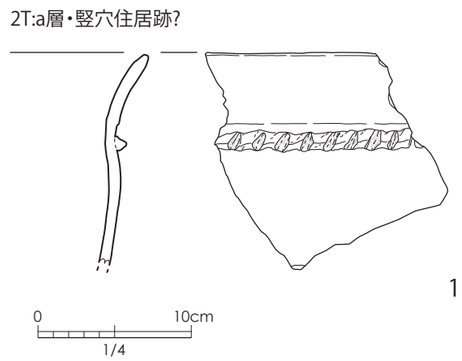



図 3.　出土遺物

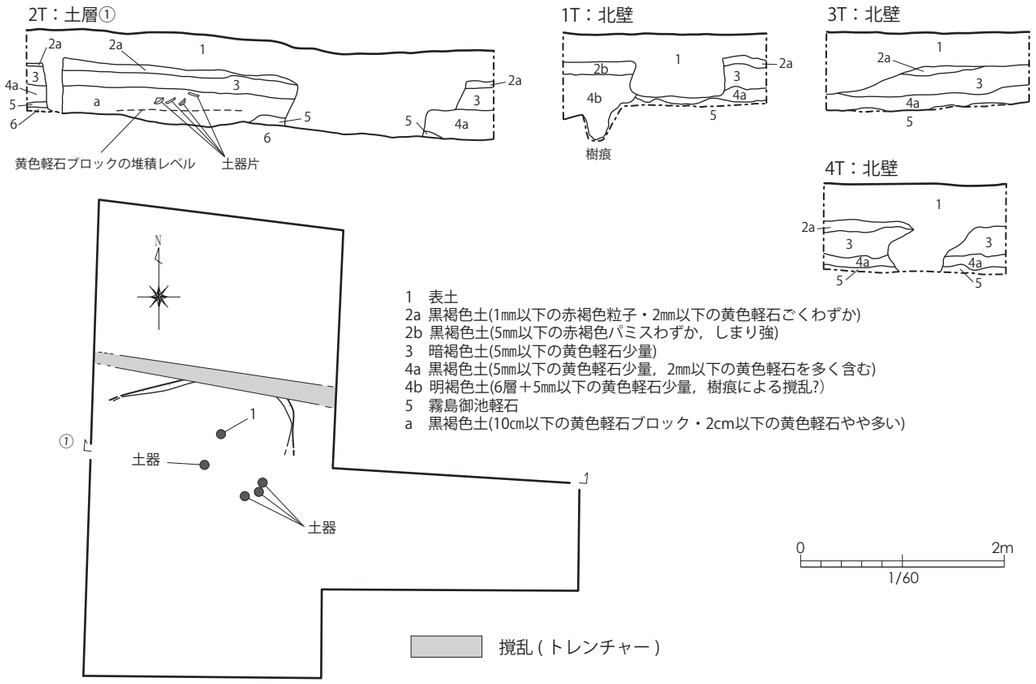
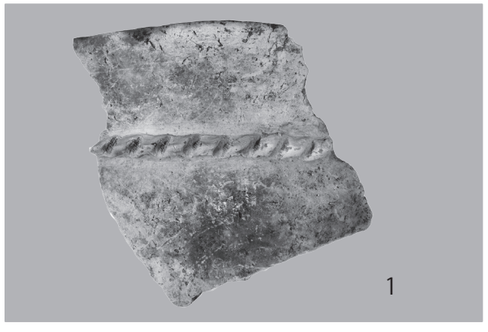



図 4.　トレンチ土層・平面

図版 2.　2T：遺構検出状況（西から）

図版 3.　2T：遺物出土状況 1




図版 4.　2T：出土遺物



# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | みやこのじょうしないいせき　8 |
| 書名 | 都城市内遺跡　8 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 都城市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第119集 |
| 編著者名 | 近沢恒典 |
| 編集機関 | 都城市教育委員会事務局文化財課 |
| 所在地 | 宮崎県都城市菖蒲原町19-1-16　郵便番号885-0034　電話番号(0986)23-9547 |
| 発行年月日 | 2015年3月25日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 元満遺跡 | 都城市高崎町江平3362-1ほか | 31°54′32″ | 131°05′52″ | 2014.4.14 | 16㎡ | 大規模太陽光発電施設 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 散布地 | 弥生 | 袋状土坑 | | 土器 | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 軍神原遺跡 | 都城市高城町穂満坊2492(高城運動公園) | 31°48′43″ | 131°07′39″ | 2014.4.23 | 8㎡ | 屋内競技場 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 散布地 | 縄文 | 集石遺構 | | 赤化礫 | | 新規発見 |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 志和池村古墳（12号）/（屏風谷第1遺跡） | 都城市上水流町2904-1ほか | 31°48′56″ | 131°05′40″ | 2014.5.8-10/1 | 178㎡ | 個人住宅 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 散布地 | 弥生・中世・近世 | 土坑・溝状遺構 | | 土器 | | レーダー含 |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 島津寒天工場跡/（山之口大丸遺跡） | 都城市山之口町山之口11640-1 | 31°50′25″ | 131°09′27″ | 2014.6.24-30 | 20㎡ | 手摺等設置 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 散布地 | 近世・近代 | 竈跡 | | なし | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 城谷遺跡（梶山城跡） | 都城市山之口町富吉7529-6ほか | 31°44′24″ | 131°08′59″ | 2014.6.24-25 | 7㎡ | 大規模太陽光発電施設 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 城館跡 | 中世・近世 | 曲輪・堀切・土塁・切岸状遺構 | | なし | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 都城跡（西城跡） | 都城市都島町774 | 31°42′57″ | 131°02′57.30 | 2014.7.17-18 | 12.5㎡ | 下水管敷設 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 城館跡 | 中世・近世 | 柱穴・土坑 | | 土器・陶磁器 | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 後牟田遺跡 | 都城市上長飯町2663ほか | 31°42′55″ | 131°05′13″ | 2014.7.23 | 18㎡ | 福祉施設 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 散布地 | 中世? | 水田跡? | | なし | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 平原第2遺跡 | 都城市蓑原町8522ほか | 31°44′02″ | 131°01′49″ | 2014.10.8-28 | 56㎡ | 店舗 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 散布地 | 中世 | 柱穴・土坑 | | なし | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 都城領主館跡 | 都城市姫城町22(明道小学校) | 31°43′11″ | 131°03′36″ | 2014.10.6 | 4㎡ | 校舎大規模改造 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 城館跡 | 中世・近世 | 竪穴状遺構? | | なし | | 新規発見 |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 山野原第1遺跡 | 都城市山之口町富吉6160-6 | 31°45′27″ | 131°09′08″ | 2014.10.23-24 | 20㎡ | 畜舎 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 散布地 | 古墳・古代・中世 | 掘立柱建物・柱穴・土坑・硬化面 | | 土器 | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 東原遺跡 | 都城市山田町中霧島3356-1ほか | 31°44′02″ | 131°01′49″ | 2014.10.30-31 | 50㎡ | 店舗 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 散布地 | 弥生 | なし | | 土器 | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 梅北北原遺跡② | 都城市梅北町1870 | 31°41′16″ | 131°03′51″ | 2014.12.3 | 8㎡ | 農業基盤整備（土層改良） |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 散布地 | なし | なし | | なし | | 液状化痕跡 |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 下川東四丁目（川東墓地） | 都城市下川東四丁目3117ほか | 31°44′55″ | 131°04′04″ | 2014.12.17-18 | 20㎡ | 駐車場 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 包蔵地外 | なし | なし | | なし | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 小山城跡 | 都城市高城町桜木1403-1（南方神社） | 31°47′32″ | 131°07′23″ | 2015.1.6 | 2㎡ | 説明版 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 城館跡 | 中世? | 溝状遺構 | | なし | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 笹ヶ崎遺跡③ | 梅北町1091-5ほか | 31°40′45″ | 131°03′07″ | 2015.1.16 | 12㎡ | 太陽光発電施設 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 散布地 | 中世 | 溝状遺構 | | 土器・陶磁器 | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 下原遺跡 | 都城市高崎町東霧島1460-1ほか | 31°51′00″ | 131°03′28″ | 2015.2.4 | 9㎡ | 土砂採取 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 散布地 | 縄文・古代 | 柱穴 | | 土器・製塩土器・石器 | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 上の段遺跡 | 都城市高崎町東霧島772-6ほか | 131°04′23″ | 31°51′08″ | 2015.2.5 | 18㎡ | 土砂採取 |
| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 散布地 | 古墳 | 竪穴住居跡? | | 土師器 | | |

都城市文化財調査報告書　第 119 集

都城市内遺跡 8

2015 年 3 月 25 日

編集・発行　都城市教育委員会事務局　文化財課
宮崎県都城市菖蒲原町 19-1-16
郵便 885-0034　電話（0986）23-9547
印刷・製本　株式会社　都城印刷
宮崎県都城市早鈴町 1618
郵便 885-0055　電話（0986）22-4392

# 都城

幸せ上々、みやこのじょう

日本一の肉と焼酎、とっておきの自然と伝統